２０１１年度　修士論文

ゴルフ競技における競技力向上のための育成システムに関する一考察

A study of the player development system for the improvement of game performance in a golf

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科

スポーツ科学専攻　コーチング科学研究領域

5010A082-6

松本　文夫

Fumio,　Matsumoto

研究指導教員：　倉石　平　准教授

目次

第 1 章　序論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p1
第 1 節　背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p1
第 1 項　日本プロゴルフツアーの現状・・・・・・・・・・・・・・・・・p1
第 2 項　世界ゴルフランキング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p2
第 3 項　一貫指導システム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p3
第 4 項　ゴルフにおける一貫指導システム・・・・・・・・・・・・・・・p3
第 5 項　先行研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p4
第 6 項　研究目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p4
第 2 節　調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p5
第 1 項　調査対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p5
第 2 項　スコットランド選定理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p5
第 3 項　ミズノゴルフアカデミー選定理由・・・・・・・・・・・・・・・p5
第 4 節　スコットランド調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p6
第 5 項　ミズノゴルフアカデミー調査方法・・・・・・・・・・・・・・・p6
第 2 章　海外での一貫指導システムの現状・・・・・・・・・・・・・・・・p7
第 1 節　スコットランドにおける育成システム・・・・・・・・・・・・・p7
第 1 項　スコットランド人選手の活躍・・・・・・・・・・・・・・・・・p7
第 2 項　スコットランドにおける育成システム・・・・・・・・・・・・・p8
第 3 項　トッププレーヤーへの道筋・・・・・・・・・・・・・・・・・・p9
第 4 項　Clubgolf の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p11
第 5 項　Performance Area/counties の内容・・・・・・・・・・・・・p14
第 6 項　Golf Academy の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p15
第 7 項　Performance clubs の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・p16
第 8 項　Support young talented professional の内容・・・・・・・・・p17
第 9 項　競技力向上に影響する要素とその方策・・・・・・・・・・・・・p17
第 3 章　インタビュー調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p18
第 1 節　A 氏に対するインタビュー調査・・・・・・・・・・・・・・・・p18
第 1 項　ミズノゴルフアカデミーの理念・・・・・・・・・・・・・・・・p18
第 2 項　ミズノゴルフアカデミーの設立経緯・・・・・・・・・・・・・・p18
第 3 項　ミズノゴルフアカデミーの目標・・・・・・・・・・・・・・・・p20
第 4 項　ミズノゴルフアカデミーの指導体制・・・・・・・・・・・・・・p21
第 5 項　ミズノゴルフアカデミーにおけるクラス分け・・・・・・・・・・p22
第 6 項　クラス毎の練習回数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p25

第 7 項　ミズノゴルフアカデミー内での競争・・・・・・・・・・・・・・・p25
第 8 項　ミズノゴルフアカデミーの今後の展望と課題点・・・・・・・・・p26
第 2 節　B 氏に対するインタビュー調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・p27
第 1 項　ミズノゴルフアカデミーにおける指導方針・・・・・・・・・・・p27
第 3 節　C 氏に対するインタビュー調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・p29
第 1 項　ミズノゴルフアカデミーでの指導形態・・・・・・・・・・・・・p29
第 2 項　ミズノゴルフアカデミーでの 1 日の練習の流れ・・・・・・・・・p31
第 3 項　ハーフラウンド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p31
第 4 項　ノート記入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p32
第 4 章　アンケート調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p33
第 1 節　選手に対するアンケート調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・p34
第 1 項　回答者属性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p34
第 2 項　選手のゴルフに対する意識調査・・・・・・・・・・・・・・・・・p37
第 3 項　選手の練習状況の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p40
第 4 項　選手のコーチとの関わりについての調査・・・・・・・・・・・・p43
第 5 項　選手のアカデミーへの意識調査・・・・・・・・・・・・・・・・・p44
第 2 節　保護者に対するアンケート調査・・・・・・・・・・・・・・・・・p45
第 1 項　子どもの目標に対する理解度調査・・・・・・・・・・・・・・・・p45
第 2 項　保護者の練習内容把握状況調査・・・・・・・・・・・・・・・・・p46
第 3 項　指導者との関係性の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p48
第 4 項　ミズノゴルフアカデミーへの思い・・・・・・・・・・・・・・・・p50
第 5 章　考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p54
第 1 節　スコットランド競技力向上の要因・・・・・・・・・・・・・・・・p54
第 1 項　選手に則したサポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p54
第 2 項　関係団体のサポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p54
第 2 節　ミズノゴルフアカデミーの考察・・・・・・・・・・・・・・・・・p55
第 1 項　指導者のサポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p55
第 2 項　目評設定の考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p55
第 3 項　指導方針の考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p56
第 4 項　練習量の考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p56
第 5 項　MGA の成果の考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p56
第 5 項　課題点の考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p57
第 6 章　結論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p59

引用・参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p60
巻末付録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p62

第１章　序論

第１節　背景

近年, 日本ゴルフ界に大きな変化がみられる. 2011 年度日本プロゴルフツアーが終わり, 男女ともに外国人選手が賞金王を獲得し, 2 年連続で日本プロゴルフツアーの賞金王が外国人選手であった. 日本人選手と外国人選手の競技力の間に大きな差が生まれ始めた.

第１項　日本プロゴルフツアーの現状

近年の日本におけるゴルフ競技力の現状として, 図 1-1 は過去 5 年間の男子日本プロゴルフツアー賞金ランキング上位 50 位での日本人選手数と外国人選手数の推移である.
図 1-2 は過去 5 年間の女子日本プロゴルフツアー賞金ランキング上位 50 位での日本人選手数と外国人選手数の推移である.

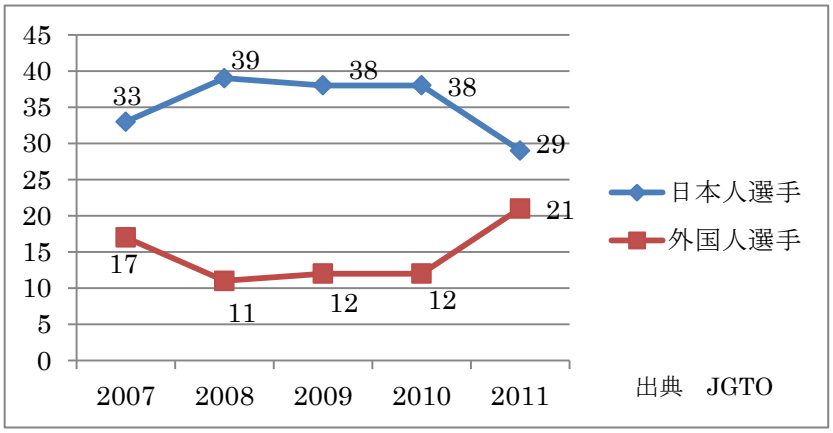

図 1-1　過去 5 年間の男子日本プロゴルフツアー賞金ランキング上位 50 位での日本人選手数と外国人選手数の推移

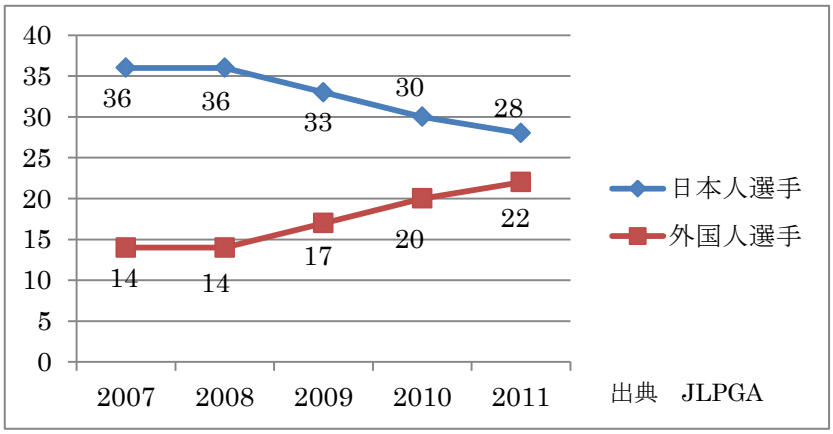

図 1-2　過去 5 年間の女子日本プロゴルフツアー賞金ランキング上位 50 位での日本人選手数と外国人選手数の推移

男子ツアーにおける選手数比較では，2011 年度では大きな変化がみられるが，過去数年間はほぼ横ばいの状況である．女子ツアーでは，2008 年度から外国人選手の数が増えはじめ 2011 年度では日本人選手 28 人に対し，外国人選手 22 人であり，50 位以内の 4 割以上の選手が外国人選手であることが解る．

あまり変化のない男子ツアーであったが，図 1-3 の男子ツアーにおける賞金ランキング上位 30 位での選手数の比較を見てみると，2009 年度から見ると 201 年度では 7 名増え，女子ツアーと同様に，ほぼ半数の選手が外国人選手であることが解る．

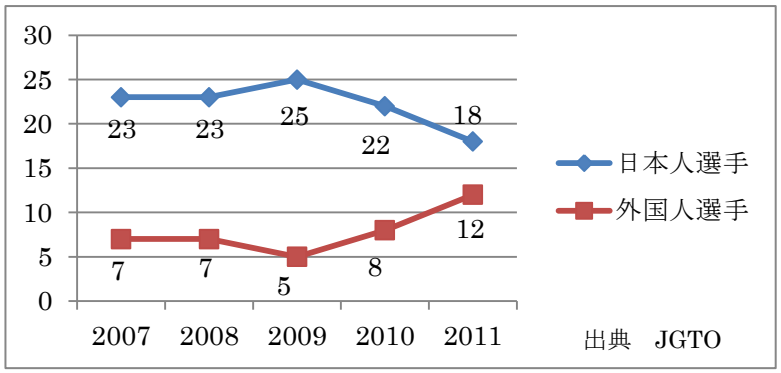

図 1-3　過去 5 年間の男子日本プロゴルフツアー賞金ランキング上位 30 位での日本人選手数と外国人選手数の推移

このように，男女日本プロゴルフツアーにおいて，外国人選手の活躍が著しいことが解る．このことから，外国人選手の競技力が向上していることが示唆される．

第 2 項　世界ゴルフランキング

図 1-4 は世界ゴルフランキング top50 の過去 10 年間における日本人選手数と英国人選手（イギリス，スコットランド，北アイルランド，アイルランド）の人数推移である．
過去 10 年間日本人選手は 1 ないし 2 選手が毎年 top50 にランクインしていた．そして，2011 年最終週発表では日本人選手は top50 以内に入っていない．しかしながら，石川遼選手が 51 位であり，それほどの大差は見られない．

近年，競技力を飛躍的に向上させてきているのが，英国人選手である．過去 10 年間での推移を見ると，2000 年から徐々に人数が増えはじめ，2008 年では 10 選手がランクインし，その後現在までその人数を維持している．また，2011 年 12 月 31 日付の世界ランキングでは top3 選手が英国人選手である．
これらのことから，日本人選手の競技力の変化はそれほどないと言えるが，その一方で世界の中で英国の競技力の向上が著しいことがわかる．
このように，競技力の面で諸外国から遅れをとっている現状から，今後日本ゴルフ界が何

かしらの方策を行う必要があると考えられる．

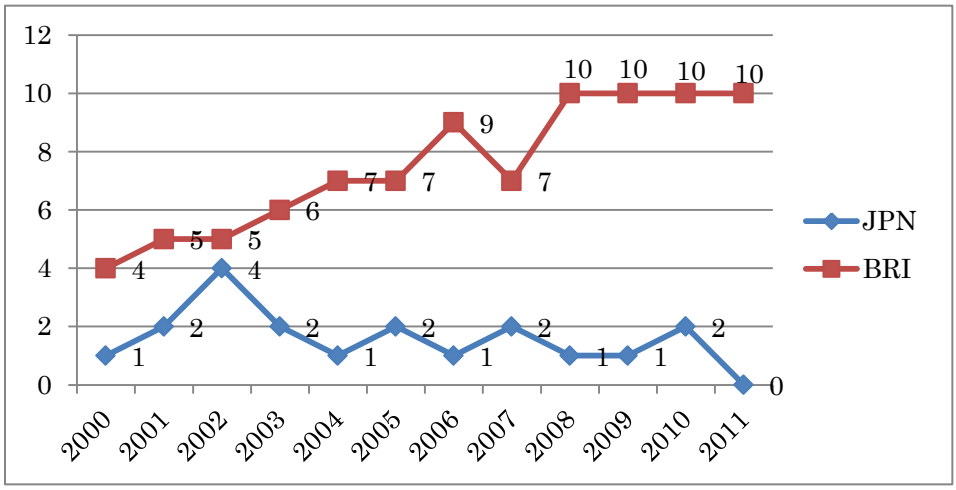

図 1-4　過去 10 年間の世界ゴルフランキング上位 50 位での日本人選手数と英国人選手数の推移

第 3 項　一貫指導システム

競技力向上の為の方策が必要と考えられる中で，一貫指導が競技力を向上させる上で重要な要素であり，各競技において一貫指導システムの構築が行われている．

一貫指導の定義として日本オリンピック委員会の「競技者育成プログラム策定マニュアル」（2003）から，「一貫指導（育成）を実施するために必要な資源・要素・条件の仕組みおよびそれを活性化し，効果的に運営するための仕組み」とされている．

また，一貫指導を行う為の要素として，指導者やサポートする各種役割の人的資質，競技・練習の施設・用具などの物的資源，指導資源，さらにそれらを連携させて運営していくマネージメント機能を一体的に組み合わせて，育成・強化を最適化して実行してゆく相対的な仕組み [5]としている．

第 4 項　ゴルフにおける一貫指導

現在世界の強豪国と呼ばれる国々では確立された一貫指導システムが構築されている．カナダ [21]，米国 [12]，スウェーデン [12]，韓国 [12]などではジュニア期からの一貫した育成システムが競技力向上の要因となっている．

一方日本における育成では，確立されたシステムははっきりとしていない状況であり，本来選手育成を主導していく中央団体においても，スナッグゴルフの小学校への普及や，各プロトーナメントでのゴルフ教室など，ゴルフの普及に関しての活動行っている [16]としているが，選手を育成・強化する活動はあまり見られない．

第５項　先行研究

スポーツのジュニア育成に関して，一貫指導システムの研究は多く行われている．

日本においても一貫指導システムの構築が叫ばれ，日本サッカーにおける育成期一貫指導の重要性として，「日本人選手に対しても，個に合わせた指導の重要性や，選手の発育発達に応じた練習プログラムの導入が必要である」[11)]としている．その他では「世界の強豪国は，優秀な若年層を発掘し，育成強化してきた結果，国際競技力が向上し，オリンピックでのメダル獲得数が著しく伸びてきた」[6)]と述べ，一貫指導システムが競技力向上に対し有効であると明らかにした．

また，ゴルフ競技においても「ジュニアゴルファーの成績向上と，全体的なレベルアップには，ゴルフへの早い取り組みと，そのためのバックアップ体制の充実が肝要である」[10)]と一貫指導システム構築の必要性を述べており，競技力向上の為に一貫指導システムの存在が必要不可欠であると言える．

その中で，日本のゴルフのジュニア育成に関しては，先行研究の中でゴルフ練習場及びゴルフ場の社会的責任・役割と経営戦略に着目し，ジュニア育成の責任がある[5)]ことを述べている．また，海外における選手育成システスに関する研究として韓国人プロゴルファーの強化・育成に関する研究[2)]が存在する．

現在，多くの競技において，ジュニア育成に関する研究は行われているが，ゴルフに関する研究は十分ではなく，海外における育成システムを明らかにしたものも少ない．また，日本の現状を明示した者も十分でない．

第６項　目的

前述のように，外国人選手と日本人選手の競技力の差は広がり始めていることは明らかである．その要因として選手育成システムの存在の有無が大きな影響を与えるということは明らかである．そこで，本研究では，現在日本での育成システムが明確に示されていないことから，今後の日本における競技力向上への示唆を得るため，日本における選手育成システムの現状を明らかにし，海外における選手育成システムと比較をすることで，今後の日本におけるゴルフ競技の一貫指導の在り方を考察し，日本ゴルフ界の競技力を向上させる一助とすることを目的とする．

第２節　調査方法

第１項　調査対象

今回の調査対象として以下の二つを選定した.
調査対象 1. ミズノゴルフアカデミー
調査対象 2. スコットランド・プレーヤーパスウェイ

第２項　ミズノゴルフアカデミー選定理由

日本ゴルフにおける選手育成は長年個人が運営するゴルフスクールが担ってきた．その代表的な例として，坂田信弘氏が運営する坂田塾が存在する．この坂田塾から多くのプロゴルファーが育成されている事例もあり，多くの著書や坂田氏自身が手掛ける著書の中で選手育成方法が明らかにされてきた.「坂田塾の指導は塾長である坂田信弘さんの方針と指導理論に従って行われます.」[3]さらに，坂田塾では選手への影響を考え，親の子どものゴルフへの干渉を禁止し,「親とゴルフに関する会話をすることも禁じています.」[3]とされている.

このような，極端な指導方法は個人が運営するスクールでのみ可能であり，多くのジュニアゴルファーに当てはめることは困難であると考える.

そこで，定期的に練習を行い，近年所属選手の競技力向上が見られるミズノゴルフアカデミーが最適な事例と考えた.

第３項　スコットランド選定理由

近年みられる英国人選手の競技力向上の中で，近年ジュニア選手の競技力向上が著しい国にスコットランドがあげられる.

近年のスコットランド人ジュニア選手の活躍の背景に，育成システム，プレーヤーパスウェイの存在がある.

スコットランドゴルフ協会では，スコットランドスポーツ庁が定める各競技の選手強化施策に対し，LTPD「Long Term Player Development」（長期に及ぶ選手の育成）を打ち出し，世界に通用する選手を育成し，スコットランドが世界のゴルフをリードする国にすることを掲げている.

このように，スコットランドの競技力向上の背景には国と協会，民間が一体となった一貫指導システムの存在が大きく影響していると考えられる.

第 4 項　スコットランド調査方法

スコットランドにおける育成システムとして，スコットランドゴルフ協会がスコットランドスポーツ庁と一体となり進めている，「Player Pathway」と呼ばれる育成プログラムが存在しており，その現状と内容，現在までの成果と今後のビジョンについて，資料・文献を参考に調査した．

第 5 項　ミズノゴルフアカデミー調査方法

日本における選手育成システムの一事例として，ミズノゴルフアカデミー（以下 MGA）を選定し，MGA にける選手育成システムを明らかにするために，MGA の現地調査とインタビュー調査を行った．

インタビュー調査：
MGA の設立理念・目的・将来ビジョンを明らかにするために，MGA 設立メンバーであり，現在スタッフとして活動に携わっている A 氏に対しインタビュー調査を行った．
MGA での指導理念・方針を明らかにする目的で，MGA ヘッドコーチの B 氏に対しインタビュー調査を行った．
MGA での，実際の指導実態・指導内容を明らかにする目的で，MGA でコーチをしている C 氏に対してもインタビュー調査を行った．
以上のインタビュー調査をもとに，MGA での選手育成システムの構造・指導内容を明らかにすることを目的とした．
調査は 1 対 1 の半構造的，自由回答的インタビューにより実施した．また，インタビューガイドを事前に作成し，そのインタビューガイドに沿いつつ，インタビューの流れに応じて追跡的質問を加えて，柔軟に対応しながら行った．また，答えを誘導するような質問にならないように十分配慮した．
インタビュー内容は対象者に許可を得た上で，すべて IC レコーダーに録音した．

アンケート調査：
選手とその保護者に対しアンケート調査を行った．アンケート調査では，普段の練習環境，練習量，アカデミーでの指導との一貫性を明らかにすることを目的とした．
アンケート紙の内容については巻末に添付する．

第 2 章　海外における育成システム

第 1 節　スコットランドにおける育成システム

近年スコットランドにおけるジュニア選手の競技力が上がっている．その，要因とスコットランドにおける育成システムの現状について分析する．

第 1 項　スコットランド人選手の活躍

調査の結果，近年スコットランドではジュニア選手の競技成績の向上が見られることが明らかになった．スコットランド人選手は現在アメリカ，中央アメリカ，アジア，オーストラリア，ヨーロッパの団体，個人戦の両方で成功を収めている．

表 2-1 より，男子では各国の主要アマチュア大会での優勝者や上位入賞者が多数存在しており，US Amateur Championship や SGU が成績目標としている European Men's や Eisenhower Trophy などの団体競技において，競技成績の向上が見られる．

イベント	年	順位
Eisenhower Trophy	2006	6th（2004 年 31 位）
European Men's	2005	2nd（2003 年 6 位）
Home Internationals	2005/2006	Win（2002～2005 年 2 位）
Walker Cup	2003	Win（2 選手がスコットランド人選手）
St Andrews Trophy	2004/2006	Win（3 選手がスコットランド人選手）
European Youth	2004	Win
British Amateur	2005	Win
The Open	2004	2nd
The Open	2005	2nd
US Amateur Championship	2006	Win

表 2-1　スコットランド人選手の主要大会での成績（男子）出典 SCOTTISH GOLF PATHWAYS 2007

また，女子選手においても競技成績の向上が見られ，表 2-2 よりユーロッパレベルでのア

マチュア大会において好成績を収めており，スコットランド人選手の競技力が高いということが明らかになった．

イベント	年	順位
British Ladies' Open	2004/2005	Win
Vagliano Trophy	2005	Win（3 選手がスコットランド人選手）
U-18 Ladies' British Amateur	2006	Win
European Young Masters	2006	3rd
St Rule Trophy	2006	Win

表 2-2　スコットランド人選手の主要大会での成績（女子）出典 SCOTTISH GOLF PATHWAYS 2007

第 2 項　スコットランドにおける育成システム

スコットランドでは Player pathway(以下 PP)と呼ばれる選手育成システムが存在する．PP は 2007 年に国家レベルで行う Scottish Golf performance Programme をゴルフ競技団体が作成し，その中核を担う，プレーヤーの競技力向上と指導者育成プランである．
図 2-1 は PP における関係団体の協力体制の図である．PP は Scottish Golf Union（以下 SGU），Scottish Ladies' Golfing Association（以下 SLGA），Professional Golfers' Association（以下 PGA）が Sportscotland(以下スコットランドスポーツ庁)の協力を得て行っている．これら 4 つの団体に加え，Scottish Institute of Sport（以下 SIS），The Area Institutes of Sport（以下 AIS），Scottish University Sport（以下 SUS）の 3 つの団体がステークホルダーとして参画している．
これらの団体がそれぞれの役割を持ち協力体制を構築している．

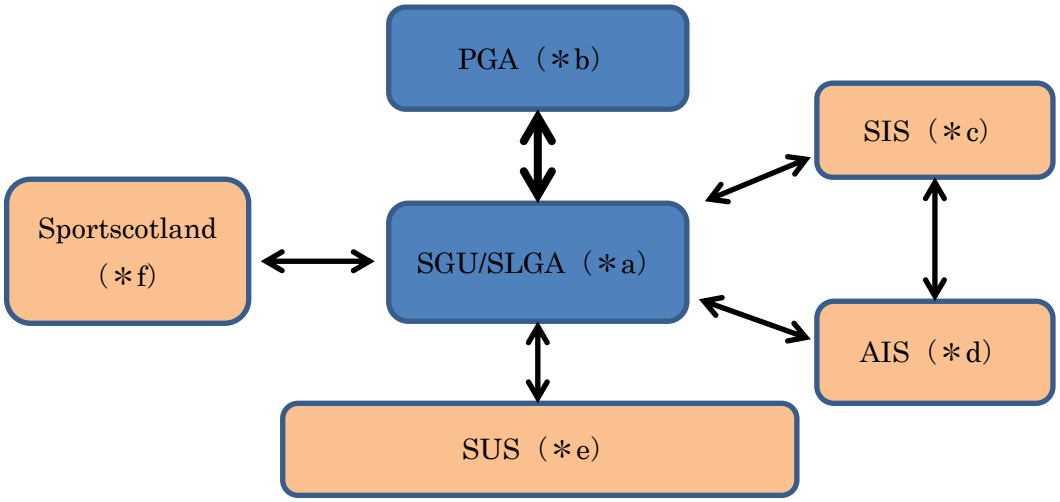

図 2-1　Player Pathway 関係団体関係図 出典 SCOTTISH GOLF PATHWAYS 2007

各団体の役割は以下の通りである．

SGU と SLGA（＊a）は，全体の先頭に立ちスコットランドゴルフにおける Pathway 組織の管理をする役割を持つ．PGA（＊b）は，指導者育成とプロによる指導サービスの管理をする役割を持つ．SIS（＊c）は，技術などの集積された情報を選手に提供する役割を持つ．AIS（＊d）は，育成選手に対し，集積された施設・設備を提供する役割を持つ．SUS（＊e）は，第 3 次教育においてサポートプログラムと競技会を選手に与える役割を持つ．スコットランドスポーツ庁（＊f）は，システムに対して，国の戦略の作成，アドバイス，出資を行う役割を持つ．

PP の使命として「プレーヤーが彼らのポテンシャルを十分に発揮し，スコットランドが世界ゴルフ界をリードすることを可能にすること」[20]と明示されている．

その中で，PP の基本目的を，スコットランドゴルフにおける成功の文化を創造する，スコットランドを代表するチームと個人に対し優れた態勢を提供する，明瞭かつ効果的に連携する高い精度の戦略とプログラムを確立する，共同事業者同士の作業で方策の有用性を最大限にする，の 4 つを定めている

具体的な目標としては，Ryder Cup に少なくとも 2 選手がヨーロッパ代表としてメンバーとなる，Solheim Cup に少なくとも 2 選手がヨーロッパ代表メンバーとなる，世界アマチュアゴルフランキング（男子）において 200 位以内に 20 選手，100 位以内に 10 選手，50 以内に 5 選手が入る，世界アマチュアゴルフランキング（女子）において 100 位以内に 10 選手，50 位以内に 5 選手が入る，男子プロ選手では，ゴルフ世界ランキング 100 以内に 3 選手，ヨーロッパランキング 100 位以内に 7 選手が入る，女子プロ選手では，ゴルフ世界ランキングで 100 以内に 3 選手，ヨーロッパランキング 100 位以内に 7 選手が入る，とされている．

以上が，スコットランドゴルフが掲げている目標であることが明らかになった．

第 3 項　トッププレーヤーへの道筋

本項では，PP において実際に選手がどのような道筋を通り，トッププレーヤーになるかを明らかにする．

図 2-2 は PP における，トッププレーヤーへの道筋である．図のようにピラミッド型の選手育成システムが構築されている．PP では，プレーヤーがトッププレーヤーになる過程を大きく分けて 4 つの段階に分け，それぞれの段階を Clubgolf，Stage3，Stage4，Stage5

に区分している.

それぞれの段階のプログラムとしては，まず，すべてのプレーヤーは小学校に入学するとともに，運動に必要な基礎的な運動技能を身に付けた後，スポーツの時間の一環としてゴルフを体験することになる．この段階が PP における第 1 段階ということになる.

PP において最初に行われるプログラムを「Clubgolf」と呼び，その中の「Firstclubgolf」はすべての小学校 5 年生（9 歳児）の子どもたちが受けることになる.

その後，ゴルフをすることを選択した子どもたちが「Clubgolf」の次のステップに進む.

「Clubgolf」には Stage3 まで存在し，プログラムを終了した子どもはセレクションを受け，成績の良いものが Stage3 の Area/Counties プログラムに進み，stage 4 のアカデミーに進む.

アカデミーでそれぞれの競技力を上げ，その中でスコットランドを代表する選手となる，または将来なるであろうと予想される選手が Stage5 のナショナルチーム・または Boys squad に入り，試合経験を積み，最終的にプロに転向する.

これら，プログラムのセレクションに残ることができなかった選手に対しても，協会が地域のゴルフ場を支援し，選手たちはそれぞれのゴルフ場でプロコーチの指導の下競技力向上につとめる.

このプログラムの特徴として，プレーヤーの好きなタイミングでこのプログラムに入ることができ，どのタイミングでもやめることができるという点である.

ただ単に，プレーヤーを排除していく切り捨て方法なく実力さえあればどのタイミングでもプログラムに入ることができる，とされている.

以上がスコットランドにおけるプレーヤーの過程であることがわかった.

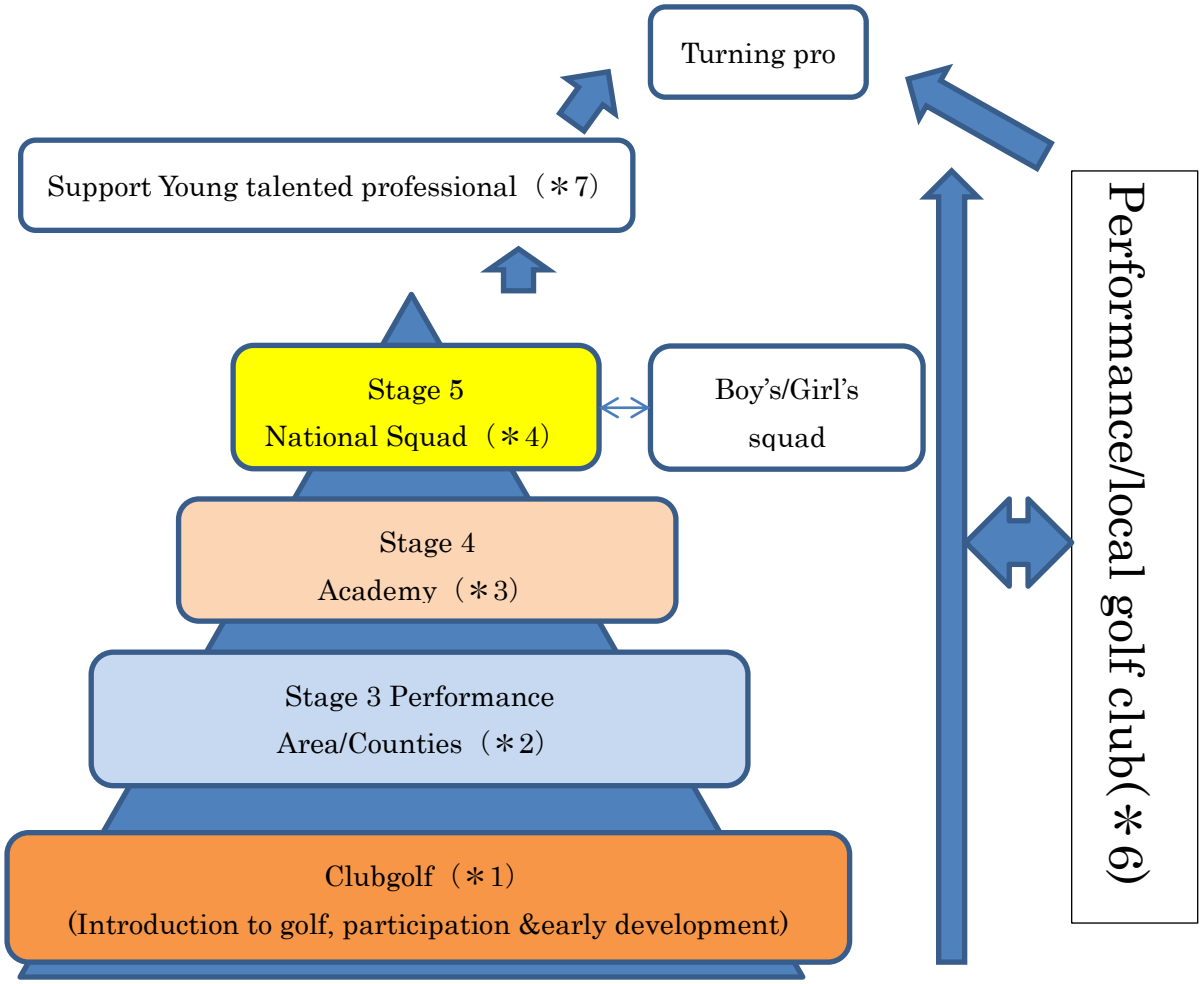

図 2-2　Player Pathway における選手の道筋　出典 SCOTTISH GOLF PATHWAYS 2007

第 4 項　Clubgolf の内容

本項では図 2-2 における（＊1）の Clubgolf について，その概要と目的，指導内容について明らかにする．

PP の選手育成システムにおいて，ゴルフ競技の普及，プレーヤーの発掘，ゴルフの基礎・基本を習得する段階に相当するのが Clubgolf である．Clubgolf は 2003 年にはじめられたプログラムである．2009 年度では，38,784 人の子どもにゴルフを紹介することができ，273 の clubgolf センターで 10,436 人の子どもがプログラムを受けた．図 2-3 は ClubGolf における選手の育成ステップである．

図のようにすべての子どもは学年ごとにステップアップしていく．

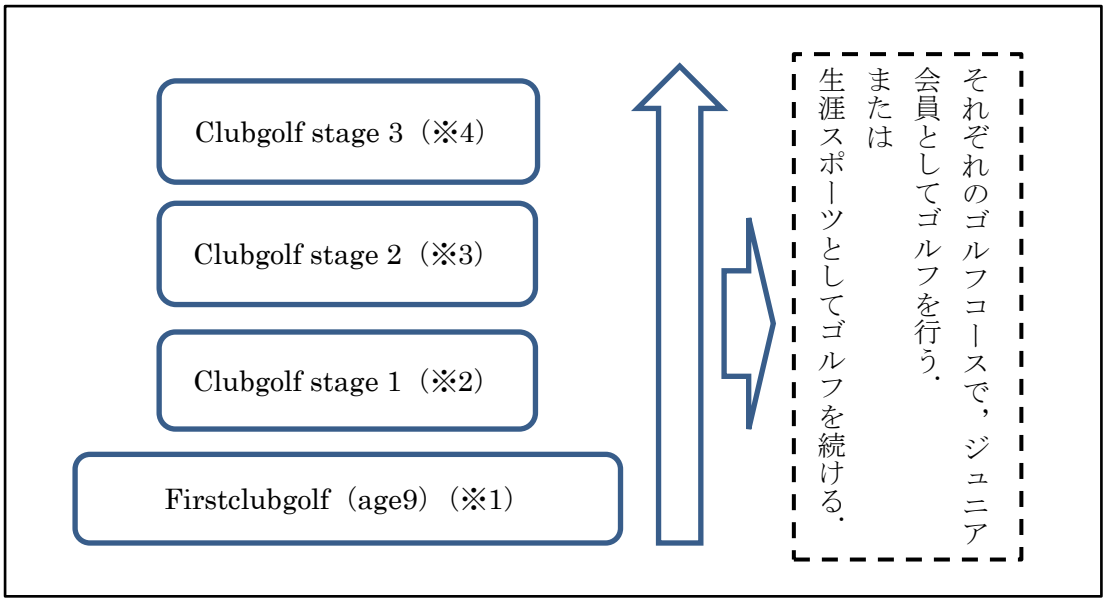

図 2-3　Clubgolf における選手の道筋　出典 Clubgolf official home page

Firstclubgolf（※1）はすべての小学 5 年生（9 歳児）を対象に行われるプログラムであり，プログラムは 6 週間にわたって行われることがわかった．
このプログラムでは子どもたちにゴルフの楽しさやゴルフを正しく経験させることを目的としている．

Firstclubgolf では，実際のゴルフクラブを使用せず，スナッグゴルフと呼ばれるゲーム・器具が使用される．

スナッグゴルフとはアメリカで年に考案されたゴルフの入門の際に用いられ，ボールを的に向けて打ち，命中させることで，ボールを的に吸着させる遊びである．スナッグゴルフのイニシャルである SNAG は「Starting New At Golf」の頭文字と，英語で「くっつく」の意味である Snag が名前の由来である．スナッグゴルフは多くの国々でゴルフの入門用として行われており，日本やアメリカ，カナダなどの諸国でも行われている．

図 2-4 がその器具である．ゴルフクラブが大きく，プラスチック製の軽い素材で作られ，ボールもテニスボール大で，初心者や小さな子供でも扱いやすく打ちやすくなっている．
Firstclubgolf では，小学校の Physical Education（体育）プログラムの一環で行われており，学校の教師が行うが，この際教師は地域で行われる専門の講習を受け Local Active School Coordinator の資格を取得しておく必要がある．

この Firstclubgolf を通して子どもたちは，ゴルフの基本的な概念と用語を学ぶことになり，地域のゴルフクラブで行われる Clubgolf stage1 に進む．Clubgolf stage1 に進むかは，それぞれの子どもの判断による．

図 2-4　SNAG Golf 用具

Clubgolf stage1（※2）は 2 年間のプログラムである．1 年間で 20 時間の指導が行われ，2 年間で計 40 時間の指導を行い，2 年間のプログラムを通してゴルフの基本技術を身に付けさせる．

このプログラムの対象は 10 歳から 11 歳の子どもである．

1 年目ではパッティング・チッピング・フルスイングを指導する．また，基礎的なルールやゴルフへの理解，エチケット，ゴルフを楽しく安全なものにするための品行も合わせて指導する．2 年目の指導では，1 年目に学んだ技術をより精度を高めるとともに，ピッチング・バンカーを合わせて指導する．

Clubgolf stage2（※3）　は 1 年間のプログラムであり，25 時間の指導時間を含むものである．

対象となる年齢は 12 歳の子どもである．

Stage1 で習得した基本技能，ルール，エチケットなどの知識をより深めていく．

また，基本技能に加え，コースの攻め方と状況に応じた攻略方法，状況に応じたショットの打ち分けなどを指導される．

子どもたちはゴルフクラブでハンディキャップを取得するレベルまでのゴルフの技能を身に付ける．

Clubgolf stage3（※4）は 2 年間のプログラムであり，13 歳から 14 歳の子どもを対象とするものである．

子どもは 1 年で 60 時間の指導を受け，2 年間で計 120 時間の指導を受ける．

技術指導では，stage1 と stage2 で指導を者に加え，ティーショット，ミドル・ショート・ロングアイアンの打ち方について指導を受ける．また，スイングの分析も行われるようになり，ショットの改善や結果は，スイングの構成によることを学ぶ．

対象の子どもたちはすでにハンディキャップを取得しており，彼らの才能や，ゴルフの競技力を判断する材料となる．Stage3 では，コーチが，才能があると認められる子どもを早くから選び，セレクションに対する用意を開始する．

Stage	年齢	期間・コーチによる指導時間	指導内容
Firstclubgolf	9 歳	1 年・6 週間（学校体育）	ゴルフの基本的な概念と用語
Clubgolf stage1	10～11 歳	2 年・40 時間	パッティング チッピング フルスイング （1 年目） ピッチング バンカー （2 年目） 基礎的なルール ゴルフへの理解, エチケット ゴルフを楽しく安全なものにするための品行
Clubgolf stage2	12 歳	1 年・20 時間	Stage1 で習得した技能に加え コースマネージメント（攻め方） 状況に応じたショットの打ち分け
Clubgolf stage3	13～14 歳	2 年・120 時間	Stage1・2 で習得した技能に加え ティーショット ショート・ミドル・ロングアイアン スイング理論

表 2-3　各ステージ別での，対象年齢と指導時間　出典 Clubgolf official home page

第 5 項　Performance Area/counties の内容

図 2-2 の（＊2）におけるプログラムを Performance Are/counties と呼ぶ.

スコットランドでは SGU の管理するエリアを 16 エリア，SLGA の管理する 15 の州・群に分けられていることが明らかになった．すべてのエリアと州・群で代表チームプログラムを有している．そのすべてにおいて，PP の中でプログラムの内容，質は重要な意味を持つ者である．より多くの指導時間を受けることができ，選手の競技力教条の為の教育や研修会に参加する権利が与えられるとされ，さらに専門の指導を受ける機会が与えられることが明らかになった.

第 6 項 Golf Academy の内容

図 2-2 の（＊3）におけるプログラムを Academy と呼ぶ.

スコットランドゴルフアカデミーは 14 歳以上の男女を育成する．個々に応じた，高いレベルで個人が最大限の成功を収めるために必要な包括的な指導とサポートプログラムを行う場である.

アカデミーにはスコットランド全土から集められたスコットランドゴルフの次世代を担う 120 名の選手たちが指導を受けている.

アカデミーの目標として，包括的な指導とサポートプログラムを行い，才能を最大限引き出すとともに，選手を育成する，とされている.

対象となる選手として，アマチュアの世界とヨーロッパレベルで，個人または，スコットランドチームの一員として好成績を収める可能性を持つと思われる選手，ウォーカーカップにおいて英国代表としてセレクションに残る可能性を持つと思われる選手，プロフェッショナルになり，最高のレベルで競い合う可能性を持つと思われる選手，が対象となる.

具体的な選考基準として，ハンディキャップ男子 10 以下，女子 20 以下，15 歳以下，指導を受ける良い態度と教わる意欲を持つ者，ゴルフコース内外での良い態度を持つ者，ゴルフアカデミープログラムの制約を守る者，より高いレベルでの成功を望む者，将来スコットランドを代表する選手になる才能を持つ者，とされ以上を選考基準としている.

これらを満たす，Performance Area and couties のプログラムに登録される選手と，登録されていない選手の中で選考基準を満たす選手が対象となる．現在，アカデミーセンターは，Aberdeen, Dundee, St. Andrews, Edinburgh, Dumfries, Glasgow, Stirling, Nairn, Tain の 9 つの場所に存在する.

図 2-5 はアカデミーにおける選手の道筋である.

Year1&2（1）の位置づけとして選手の技量・資質の確認段階である，とされている.

選手は年 60 時間の指導を受けることになり，指導の多くはグループレッスンになるが，数時間個人レッスンを受けることができる．2 年間のプログラムの中で，特に基本技能とパフォーマンスに影響を及ぼす要因についての知識を学び，今後より一層の競技力向上の為の技能と知識を身に付けることが明らかになった.

Year3&4（2）の位置づけとして選手の技量・資質の発展段階とされている．選手は 30-60 時間の指導を受けることになり，その多くは個人レッスンを受けることになる．個人の必要に応じた指導を行い，総合的にゴルフのパフォーマンスを向上させることを目的としていることが明らかになった.

Year5（3）の位置づけとして，国家的プログラムへの変換期とされている．選手が 18 歳以下の場合か，ナショナルコーチが将来ナショナルチームに選ばれると信じる選手に対し，およそ 15 時間の指導と，施設利用や練習環境のサポートを行う．

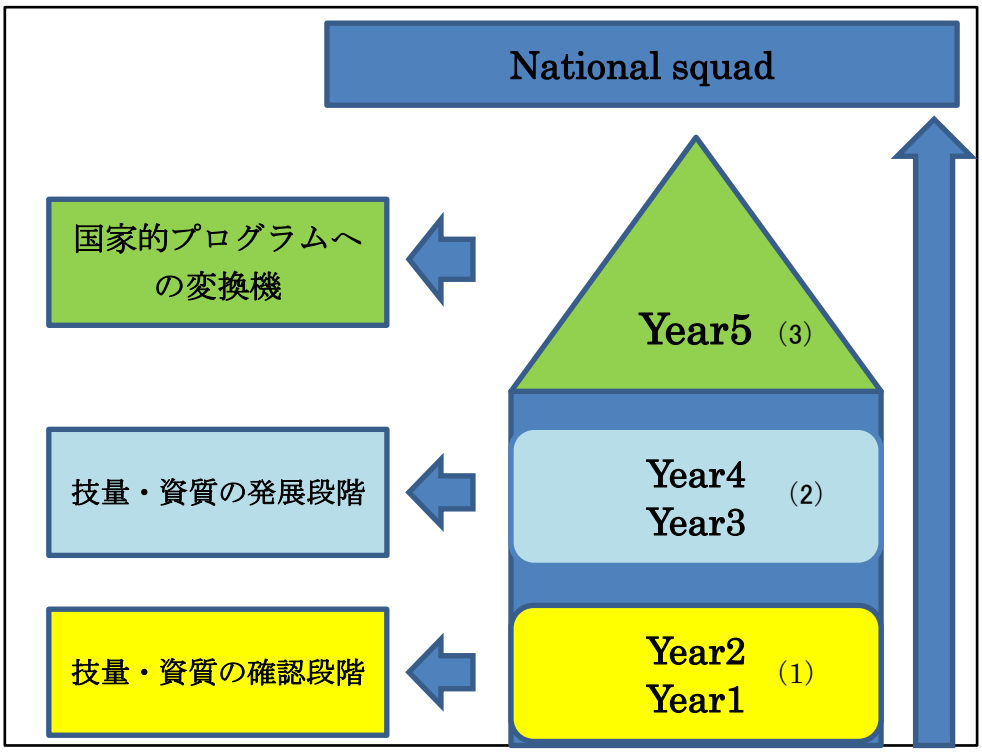

図 2-5　アカデミーでの選手の道筋　出典 SCOTTISH GOLF PATHWAY 2007

第 7 項　Performance clubs

図 2-2 の（＊6）におけるプログラムを Performance clubs と呼ぶ．

スコットランドにおける選手育成において必要な存在であると明記されている．パフォーマンスクラブは民間のゴルフ場などで行われ，選手支援の幅を広めるとともに，アカデミーや選抜チームに選ばれることがなかった，才能ある選手に対し競技力向上の機会を与え，支援することが目的である．

パフォーマンスクラブの定義として，最低限のトレーニング施設を有するクラブ．若手選手指導経験を持ち，PGA のコーチ資格を持つ者がいるクラブ．それぞれのエリア，州・群プログラムの支援を受けているクラブ．とされ，選手はそれぞれ個人でクラブに所属しコーチの指導を受け，競技力向上を目指す．

第 8 項　National squad

図 2-2 の（＊8）におけるプログラムを National squad と呼ぶ.

スコットランドには 4 つの中核となるナショナルチームが存在している.
男子ナショナルチーム，少年ナショナルチーム，女子ナショナルチーム，少女ナショナルチームの 4 つである．スコットランドや海外で行われる試合での成績に応じたポイントをもとに選定される．科学的根拠に基づいたトレーニングに合わせ，多くの試合経験，スコットランドスポーツ学会の全面的な支援を受けることができるとされている.

現在ナショナルチームには男子 9 選手，少年 9 選手，女子 8 選手，少女 7 選手が選抜されている.

第 9 項　Support Young talented professional

図 2-2 の（＊7）におけるプログラムを Support Young talented proffesional と呼ぶ.

スコットランドの最も才能のある選手のサポートプログラムであり，スコットランドスポーツ庁と政府によって作られた．プログラムを受けたいもので，セレクションを受け許可を得たすべての選手は支援を受けることが可能になる．支援の内容は，暖かい気候の中での指導，スポーツ科学と医療サポート，滞在と移動の手配などの手助け，移動費や試合参加費の減額など，スコットランドの気候や個人では受けることのできない支援を受ける権利が与えられ，支援を受けることで多くのメリットが生まれるものになることが明らかになった.

第 3 章　インタビュー調査

本章では，MGA スタッフの 3 名の方にインタビュー調査を行った.

A 氏へのインタビュー調査より，MGA の基本理念，沿革，目的，目標などの概要と，MGA の現状とコーチとスタッフの体制，MGA での育成システムの現状と今後の展望を調査した.

B 氏に対しては，MGA ヘッドコーチであることから指導方針を調査した．B 氏に対しては, MGA で実際に選手指導に当たっていることから, MGA における指導方針を調査した.

C 氏は MGA で設立時からコーチをしており，MGA での実際の指導内容，選手，保護者との関わりについて調査した.

第 1 節　A 氏に対するインタビュー調査

本節では，A 氏に対するインタビュー調査の分析を行う.

第 1 項　ミズノゴルフアカデミーの理念

MGA の理設立理念は何かという質問に対し，以下の回答を得た.

まず,「ゴルフというスポーツ媒体を使って，人々の人生を豊かにすること.」また,「ジュニアに対しては子どもたちが立派な大人になる協力をすること.」そして,「科学的な根拠に基づいた身体やメンタルの部分も指導する総合的なアカデミーであること.」これら 3 つを理念としていることが明らかになった.

第 2 項　ミズノゴルフアカデミーの設立経緯

設立背景として，ミズノがスポーツの総合アカデミーを設立したいという背景のもと，アカデミー担当者がゴルフ経験者であり，その第一歩としてゴルフという競技を選択したということが明らかになった.

その際に中央団体でジュニア育成を担当され，各国の育成システムの調査研究をされていた A 氏が仕事の転機で中央団体を退職され，担当者から総合型アカデミーを設立したいという依頼を受け，それまでの経験や知識をもとにアカデミーを設立したという設立背景となっている.

設立に際するメインスポンサーはミズノ株式会社であり，現在においてもミズノ株式会社が出資し，MGA の運営を行っている.

設立に際し，ゴルフ環境の整備として，MGA 設立以前からミズノゴルフスクールがレッ

スンを行っていたゴルフコースの中で選定された. 表 3-1 は選定条件である. ゴルフコース，練習場（ドライビングレンジ)，パッティンググリーン，アプローチグリーン，アカデミーハウスの 5 つの施設を使用可能であることとされた．これは，実践的なゴルフ練習の為にはゴルフコースでの練習が必要不可欠であり，またパッティングやアプローチなどのショートゲームを練習できる環境を整えることが総合的な練習になるという A 氏の考えがあり，それら条件を満たすゴルフコースを選定した．その結果，4 年前に高麗川ゴルフクラブでの高麗川校が開校，2 年前に姉ヶ崎カントリークラブで姉ヶ崎校が開校した．

各アカデミー校登録の選手数は関西の有馬ロイヤル校では約 20 選手，高麗川校，姉ヶ崎校合計で約 100 名程度であると回答された．

	アカデミー校選定条件
1	ゴルフコースが使用可能であること
2	練習場（ドライビングレンジ）が使用可能であること（屋根の有無は関係なし）
3	パッティンググリーンが使用可能であること
4	アプローチグリーンが使用可能であること
5	アカデミーハウスがある（クラブハウスと別棟であること）

表 3-1　アカデミー使用コース選定条件

MGA でのコーチとして，まずヘッドコーチとして B 氏を招聘した．B 氏はミズノ所属のインストラクターであり，プロゴルファーのレッスンを行うなど選手のコーチングに関して実績を積んでいる．

また，ミズノゴルフスクール特別講師であり，指導に大きな影響を与えるジョー・ティール氏の下で数年間指導者としての経験を積んだ C 氏をコーチとし，初期メンバーとして設立当初から選手のコーチングに携わっていることが明らかになった．

ジョー・ティール氏とは，米国出身のティーチングプロで 1993 年に米国プロゴルフ協会から同協会発足以来 117 番目のマスタープロフェッショナルの資格を授与されたティーチングプロである．現在までに 200 人以上のプロゴルファーを指導し，バレスキナープロや朴セリプロ，日本では湯原光プロ，服部道子プロらを指導，ジュニア選手ではキャメロン・ペック選手を指導するなど多くの実績を持っている．各選手の競技力は表 3-2 にまとめる．

選手名	競技成績（主なもの）
バレスキナー	96 年米国 LPGA 賞金ランキング 10 位
朴セリ	98 年全米プロ選手権優勝，98 年全米女子オープン優勝
湯原信光	日本プロツアー通算 7 勝
服部道子	98 年日本女子プロツアー賞金女王
キャメロン・ペック	2008 年全米ジュニア選手権優勝

表 3-2　ジョー・ティール氏の主な活動実績

第3項　ミズノゴルフアカアデミーの目標

MGA では理念に基づき以下の 3 つの目標を掲げている.

・子どもたちの人間原生を豊かにし，立派な大人に育てる.
・世界に通じる選手の育成.
・ゴルフと勉強を選手それぞれに応じてできる限り高いレベルにする.

ここで言われる世界に通用する選手とは，ゴルフが強いだけでなく，周りからも尊敬されるような立派何人間性を持った選手であるということが明らかになった.
また,「韓国などのように競技だけに特化することなくバランスよく人間を育てたい」という回答を得た．また,「現に欧米では行えている現状があるので，日本においてもできるはずであると考えている」と回答され，技術・人間性を兼ね備えた選手の育成を目標としていることが明らかになった.

選手に対する目標として，選手が世界で活躍することとともに，立派な大人になることを最終目表とし，2，3 年後に日本の全国大会での top10 に 5 名の選手が入る．その後，常連となるようにしていきたいと回答を得た．その後，全国大会での優勝者を輩出したいという目標があるということが明らかになった. 表 3-3 は選手に対する目標をまとめたものである.

また，MGA の組織としては，この数年で関東にもう 1 校アカデミーを増やし，5 年を目安に全国展開していくことを考えている. 10 年後には全国に 10 校以上のアカデミーを開講, その後世界にも開校していくことを目標としていることが明らかになった．表 3-4 は MGA としての目標をまとめたものである.

こういった目標の中，MGA での現状として，現在の選手競技力では着実に成果を上げていることが明らかになった．現在では，設立 3 年目で関東大会での優勝者を輩出し，4 年目では関東大会で男女ともに優勝者を輩出したことがわかった.

MGA の組織としての目標として現在は，関東に姉ヶ崎校と高麗川校の 2 校，関西に有馬ロイヤル校の計 3 校を設立し，運営していることが明らかになった.

	目標
現状	2 年連続で関東大会の優勝者を輩出
2~3 年後	全国大会で top10 に 5 名入賞
5 年後	全国大会で常連となる
5 年～	全国大会での優勝者の輩出

表 3-3　ミズノゴルフアカデミーでの選手に対する目標

	目標
現状	関東に 2 校，大阪に 1 校（大阪は規模が小さい）
2~3 年後	関東でアカデミー校をもう 1 校開校する
5 年後	アカデミー校の全国展開をする
10 年後	全国で 10 校以上アカデミー校を開校する

表 3-4　ミズノゴルフアカデミーとしての目標

第 4 項　ミズノゴルフアカデミーの指導体制

MGA におけるスタッフに関しては，現在コーチ 8 名，スタッフ 4 名，トレーナー2 名の計 14 名で運営されている．それぞれの役割として以下の通りである．
図 3-1 は MGA におけるスタッフと選手間の関係図を筆者が図にしたものである．コーチは技術指導を専門に行う．スタッフは，役割としてコーチの指導補助や，ゴルフに対する心構え，取り組み方法，生活指導，コーチと選手のコミュニケーションの手助けなどを行う．トレーナーは 2 名で，月 1 回のトレーニング相談コーナーのほか，第 2，第 4 火曜日の実技指導を行っている．1 名はプロを担当した経験を持つトレーナーであり，もう 1 名は大学で専門に研究されている方であることが明らかになった．

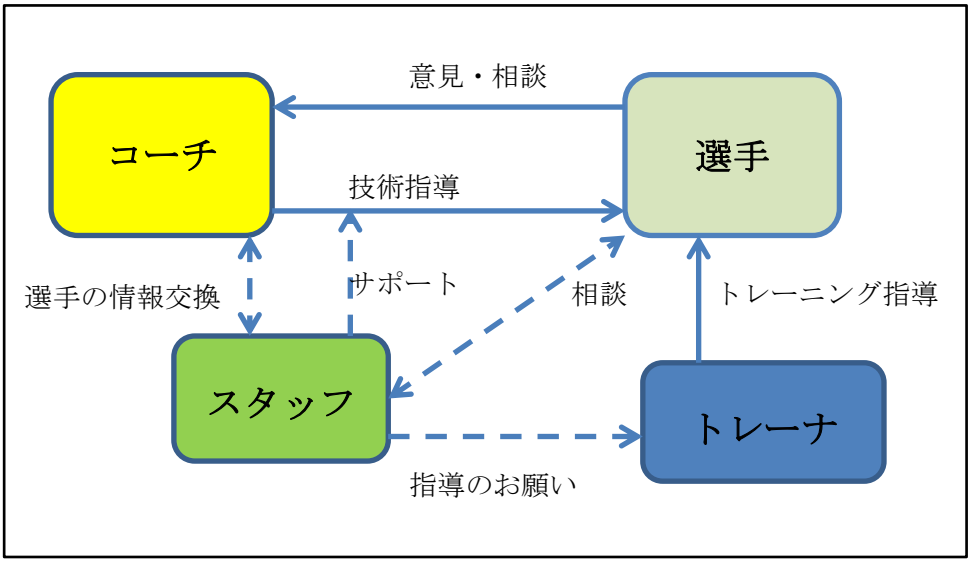

図 3-1　アカデミーにおけるスタッフと選手間の関係図

MGA でのコーチ求められる資質として，「PGA または LPGA のプロコーチの資格と，日本体育協会のジュニア教師の資格も持つ人を対象としています」と回答を得たことから，ゴルフの指導と，子どもに対する指導の専門的な知識を持ち合わせた者を対象としていることが明らかになった．現在は，その資格を持つもので，実際に MGA での研修を受けジュニア選手を指導する熱意のある者を MGA コーチとして採用していることが明らかになった．

第 5 項　ミズノゴルフアカデミーにおけるクラス分け

MGA での選手のレベル分けとして，MGA における選手の道筋を筆者が図にした．図 3-2 より，まず初級者を対象とするルーキークラスがある．その次の段階に J3 クラスが存在し，その後参加条件を満たすものに関しては J2 クラスに参加することが出来る．J2 の選手の中で，選抜された選手に関しては，より専門的，個別的な指導を受け，高いレベルの試合を目指す J1 クラスに参加することがわかった．そして，その後 MGA を卒業，より高いレベルや大学でプレーするということが明らかになった．

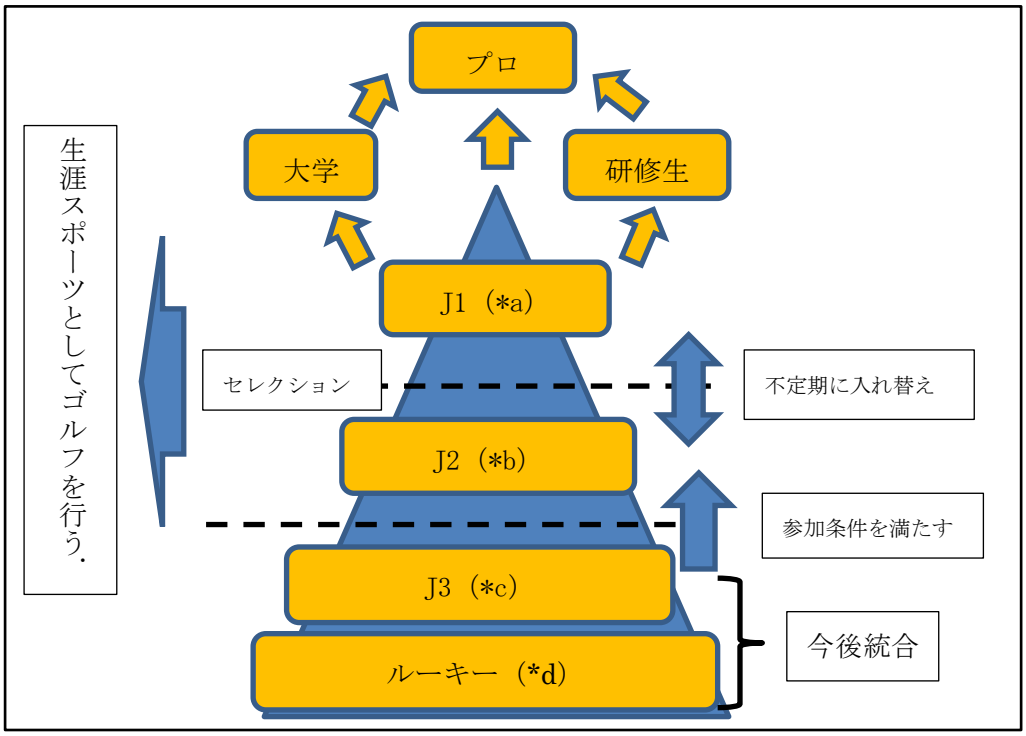

図 3-2　MGA における選手の道筋

表 3-5 は各クラスにおける対象と目標である．

表 3-5 より，ゴルフ初心者を対象とするルーキークラスでは，ゴルフの基本的なルールやエチケットを学び，ゴルフの楽しさを知ることを目的としている．

ルーキークラスは今後廃止，J3 クラスに吸収されることになる．

J3 クラスでは初・中級者を対象とするクラスである．小・中規模の Jr トーナメントに挑戦することを目指すことを目的としている．

J2 クラスは中級者を対象とするクラスであり，現在最も選手数の多いクラスである．大規模トーナメントに挑戦し，全国大会への出場を目指すクラスである．

J1 クラスは上級者を対象とするクラスであり，J2 クラスから，選抜された選手が対象となるクラスである．J1 大規模トーナメントに挑戦し，全国大会での入賞を目指し，より高いレベルで競技を行っていくことを目的としている．J1 クラスに限り人数制限を設け，5～6 選手のクラスとすることがわかった．

クラス	対象	目的
J1	上級者（18H を 80 以下でプレー）の中で選抜	大規模トーナメントに挑戦し，全国大会での入賞を目指す．
J2	中級者（18H を 100 以下でプレー）	大規模トーナメントに挑戦し，全国大会への出場を目指す．
J3	初・中級者（18H を 119 以下でプレー）	小・中規模の Jr トーナメントに挑戦することを目指す．
ルーキー	初級者（ゴルフ初心者）	ゴルフの基本を身に付け，楽しさを知ることを目的とする．

表 3-5　MGA における，選手レベルに応じたクラス分け表　出典 MGA からの資料

各クラスに入るにはそれぞれ参加条件が設定されていることが解った．

表 3-6 より，J1・J2 の参加条件では，同じ条件であることが明らかになった．J1 クラスと J2 クラスを分ける要素として，コーチによる選定が行われる．特に J1 クラスでは，全国大会での上位入賞を目標とすることから，MGA での競技力の高い選手の選抜クラスであることが明らかになった．

しかし，条件を満たさなくなった，または J2 クラスで J1 クラス所属の選手より，将来性を見込まれる選手はその都度メンバーを入れ替えることになる．

クラス	参加条件
J1	第 1 条件 MGA コーチ 4 名のうち 2 名が参加を認めた者 ジョー・ティールプロの推薦がある者 ミズノが推薦する者 第 2 条件 A. 日本ゴルフ協会と下部連盟，高校ゴルフ連盟，中学ゴルフ連盟，日本パブリック協会の地域大会及び全国大会において，2 年以内に地域大会はベスト 10 位以内，全国大会は 20 位以内の経験者 B. MGA が実施するアカデミートーナメントで 3 位以内入賞者 第 3 条件 学校の規定する出席日数を満たして，且つ成績が 10 段階評価の 6 以上に相当するもの（学校の背席表を提示する）
J2	第 1 条件 MGA コーチ 4 名のうち 2 名が参加を認めた者 ジョー・ティールプロの推薦がある者 ミズノが推薦する者 第 2 条件 A. 日本ゴルフ協会と下部連盟，高校ゴルフ連盟，中学ゴルフ連盟，日本パブリック協会の地域大会及び全国大会において，2 年以内に地域大会はベスト 10 位以内，全国大会は 20 位以内の経験者 B. MGA が実施するアカデミートーナメントで 3 位以内入賞者 第 3 条件 学校の規定する出席日数を満たして，且つ成績が 10 段階評価の 6 以上に相当するもの（学校の背席表を提示する）
J3	特になし
ルーキー	特になし

表 3-6　MGA におけるクラス参加条件　出典 MGA からの資料

J3 から J2 に進級する場合，新旧テストが行われることが明らかになった．テストの内容はとして下記の項目がある．

スコアについて

1. 1番から5番またはそれ以上のホールをラウンドし，トータルスコアが合格スコア以下であれば，合格とする．（合格スコアはすべてのホールのダブルボギーのスコア合計）

プレーについて

1. 基本的なルールやプレーマナーについて理解し，守ることができている．
2. プレー中のルールとマナーのチェックが行われ，ルールマナーの両方の違反がプレーホール×2個までの違反がなければ，合格とする．

とされている．

第6項　クラス毎の練習回数

MGAでは選手のクラスによって，練習回数と内容が異なることが明らかになった．
表3-7より，J1クラスではプライベートレッスンを基本とし，毎週1回行うとしている．
また，J1クラスでは特別プログラムとして，キャンプ，レッスン，練習を受講することができる．また，クラブフィッティングを3～6ヶ月に1回受けることができる．
J2クラスでは，1ヶ月最高3回までのレッスンを受講することができ，内容は選手ごとで選択をする．レッスン内容はグループレッスン，プライベートレッスンを受講できる．また，クラブフィッティングを3～6ヶ月に1回受けることができる．
J3クラスではグループレッスンのみの受講となり，1ヶ月最高3回までの受講が可能である．
ルーキークラスでは，月に1回のグループレッスンのみ受講可能である．
このように，クラスが上がるにつれより多くの指導機会と，個人レッスンなどの個々の状況や状態に応じた指導が行われるようになる事が明らかになった．また，特別プログラムであるキャンプなどに参加することができるほか，クラブフィッティングなどを行えるというメリットが生まれることが明らかになった．

第7項　ミズノゴルフアカデミー内での競争

MGAでは，年間3回の競技会が行われる．その競技会の優勝者には優勝の特典としてプロの試合の予選会への出場権が与えられる．メインスポンサーであるミズノ株式会社が主催する試合が対象となり，近年では予選会を通過し本戦に出場する選手が生まれた．着実にプロのレベルに近づいている選手が育っていることがわかった．
競争心を持つことで向上心を持つことができ，2010年日本男子プロツアー賞金王キム・キョンテが著書の中で「トップレベルの選手と競争しなければならない状態はとてもためになった」[13]述べ，競技力向上に繋がるものである．

	J1	J2	J3	ルーキー
練習回数	毎週の個人レッスン．1 回 30 分	月に 1～2 回の個人レッスン． 指導内容は，選手が選択する． グループレッスンは 1 回 60 分 3 名まで，プライベートレッスンは 1 回 30 分	月に1～2回のグループレッスン． （1 時間～1 時間半）	月に 1 回のグループレッスン
指導項目	プライベートレッスンとすべてのグループレッスン	ショット，アプローチ，パッティング，ラウンドレッスン，プライベートレッスン，自主練習	ショット，アプローチ，パッティング，ラウンドレッスン，自主練習	
特典	特別プログラムの受講が可能． クラブフィッティングを3～6ヶ月に 1 回受ける．	クラブフィッティングを 3～6 ヶ月に 1 回受ける．		

表 3-7 クラス毎の指導時間と内容　出典 MGA からの資料

第 8 項　ミズノゴルフアカデミーの今後の展望と課題点

今後の展望と課題点として，先にも述べたように MGA の目標として 2 つの分類に分けられる．選手への指導内容の充実と，練習環境の充実である．A 氏は指導内容として，コーチ数を増やすことと，専門スタッフの充実を挙げた．現在，常時 8 名のコーチと 4 名のスタッフで高麗川校，姉ヶ崎校を運営しているが，コーチの数が少なく密度の濃い指導をするためには，選手数を増やすことができないのが現状であることが分かった．今後，指導者養成のためのコースをミズノ独自で構築していく必要性があると述べ，構想の段階ではあるが，実際に活動していることが明らかになった．また，専門のスタッフとして，現在はフィジカルコーチを持つまでになったが，今後は栄養士，メンタル面でのサポートスタッフを持ちたいと考えており，サポートスタッフのアカデミー常駐を今後の構想としていることが明らかになった．しかしながら，「人材を雇おうにも，雇う資金がない」と述べ，資金面での問題が大きいことが明らかになった．

指導者育成に関する課題点として，「インストラクターとコーチの違いを理解する人材が少ない」と口述し，技術だけを教えるインストラクターと違い，コーチとして選手を育て導いていくことを理解し，情熱を持っている人が少ないことが明らかになった．現在のところ，ミズノ所属のプロを対象にコーチの募集を行っているが，「今後は外部に募集をし，熱意ある人材を集めたい」と口述した．

施設面での課題点として，アカデミー校を増やしたいと考えているが，「増やしてもコーチの数が少ない」「コーチがいないのであれば，新しい選手より今いる選手に集中したい」と口述し，指導者育成が大きな問題点としてあることが明らかになった．

また，MGA ではさらなる指導に一貫性を生むために学校の部活動との連携を深めたいと口述した．学校に MGA からコーチを派遣することで，MGA 以外での練習での指導を行える体制を構築することが今後の展望であることが明らかになった．現在は関東にある 2 校との提携をしており，今後より多くの学校部活動との連携を行っていくことが必要だとの口述を得た．

最後に，ゴルフの普及に関しての活動が十分でなく，より多くの子ども達にゴルフの楽しさを伝える活動を合わせて行っていくことが必要であると口述を得た．

第 2 節　B 氏に対するインタビュー調査

本節では B 氏に対して行ったインタビュー調査を分析し，MGA での指導方針を明らかにする．

第 1 項　ミズノゴルフアカデミーにおける指導方針

指導方針として，ジョー・ティール氏の掲げる指導方針をもとに，B 氏の指導哲学を盛り込んだ内容となっており，選手の感覚を特に重要視した指導内容をとっていることが明らかになった．

選手を指導する際に気を付ける部分として，選手に主となるコーチを選択させ，そのコーチの方針に従い指導することを基本としている．これは，選手が外部のコーチからも指導を受けていることが多く，MGA と外部での練習の中で一貫性を出すために行っていることがわかった．

「原因と現象があり，現象を修正するだけでは緊張した場面や，再発してしまうから，理論の部分から説明したり，実際に感じさせることで納得させ，原因となっている部分を修正する」と口述し，問題の基となっている部分を修正し，目先のことを教えず，時間がをかけてでも問題の主となる問題点の修正を行うことが明らかになった．また，「絶対に嘘は教えない．正しいものを正しく教える」「1 から順に指導する」と口述し，理論に沿った指

導を行うことが明らかになった．
指導の内容に関しては，「選手がどれだけ代償を払うことができるか聞き，その代償に見合った指導をする」と口述し，選手がどれだけ練習にたいして時間を費やすのか，またゴルフに対しどこまでの代償を払えるかで，指導の内容を個々に合わせ変化させるということがわかった．
図 3-3 は指導方針である．上記にも示したように，原因を探り，修正することで現象にアプローチする．

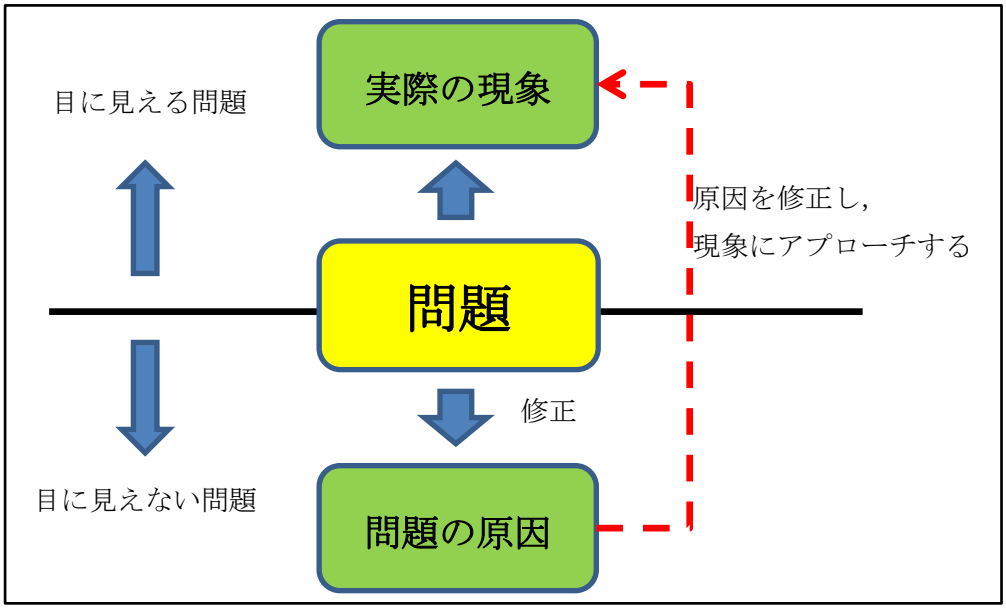

図 3-3　問題に対するアプローチ方法

第 3 節　C 氏に対するインタビュー調査

C 氏は，MGA で実際にコーチとして活動している．本節では MGA での指導内容を分析する．

第 1 項　ミズノゴルフアカデミーでの指導形態

指導の形としては，「目標を選手に決めさせ，その目標に沿った指導，サポートをします」と口述し，目標設定を特に重要視していることが明らかになった．
また，「選手，親，コーチのトライアングルのチームとして活動している」と口述し，図 3-4 のような関係になっていることが明らかになった．
選手が目標設定を行い，コーチと親が常に選手の状況を把握して，目標に向けての方向性を常に保つようにしている形である．また，目標設定時の支援として，選手が低い目標設定をする場合には，話し合いを持ち目標をより高い位置に設定する．また，高い目標の場合では，間に数ステップおいて目標を達成するような方向に導いていく．
このトライアングルの利点として，選手，親，コーチが相互にコミュニケーションをとることで，誰か一人でも理解してない場合においても，もう一人が補足説明をすることで理解ができるようになる．
そのために，常に相互コミュニケーショを取り合い内容の確認と，目標や練習の方向性の確認を行っている．また，選手の主たるコーチが外部のコーチの場合は，練習内容をしっかりと把握し，現在取り組んでいる課題に沿った指導を行うようにしている．

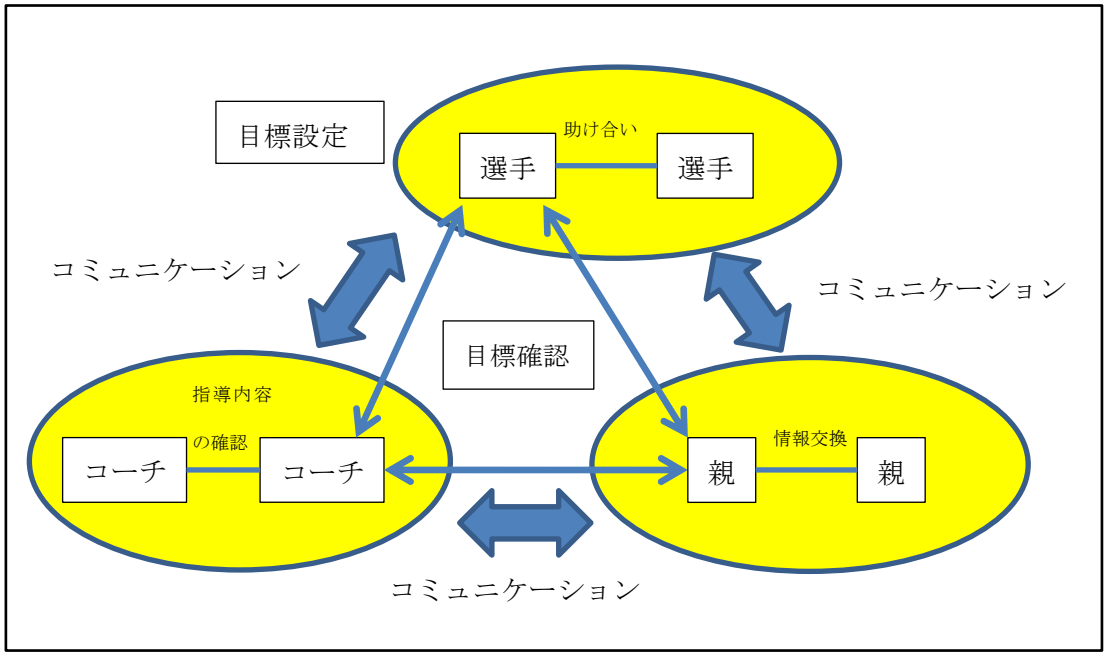

図 3-4　ミズノゴルフアカデミーにおける選手・親・コーチの関係図

また，このトライアングルの関係はアカデミー全体にも適応され，選手同士の中で助け合いや，生え増しあうことで，選手間の，選手たちで問題を解決する能力を養うことを目的としている．また，親同士でも情報交換が盛んになり，有益な情報を得やすくなる．

インタビュー調査を通じて，MGA での指導にはジョー・ティール氏の指導方針が大きな影響を及ぼしていることが明らかになった．
ジョー・ティール氏の指導方針を踏まえ，MGA では，図 3-5 のようにパターやアプローチなどショートゲームを行い，順に距離のあるショットの練習を行うことがわかった．

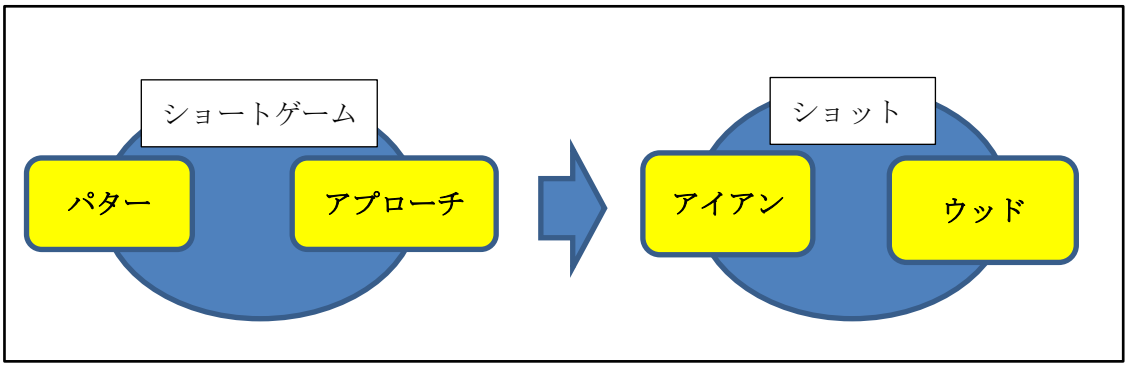

図 3-5　MGA での技術習得の流れ

ショットの習得過程として，まず距離を合わせる距離感を養い，その後インパクトの打感，そして方向感覚を養っていく．その後，個人に合ったスイングを習得していくという過程をとることが明らかになった．この習得過程はすべてのショットにおいて適応される．習得過程は図 3-6 の通りである．

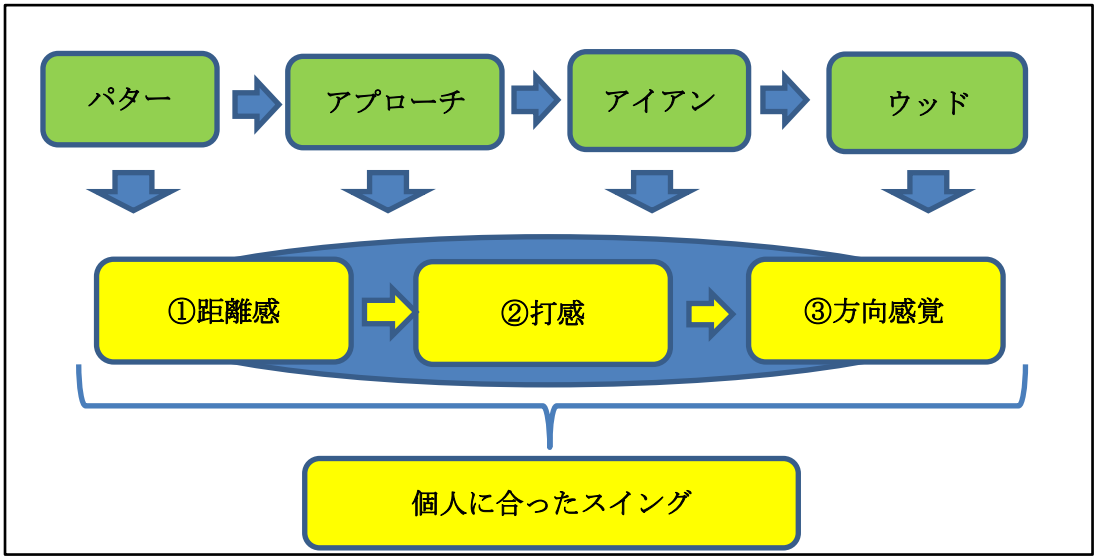

図 3-6　MGA での各ショット習得の流れ

MGA での指導方針である，子どもの感覚を残しつつ，スイングの型にはめることなく，それぞれの感覚に応じたスイングの習得を行っていくことが明らかになった．

第 2 項　MGA での 1 日の練習の流れ

時刻	内容
9:00	選手がアカデミーハウスに集合し，朝礼を行う．
9:45	練習場に移動し，準備体操を行う．
9:50	練習場でのボール拾い．選手，コーチ，保護者の全員で行う．
10:00	ウォーミングアップ
10:15	練習開始
14:30	ラウンド開始
17:00	ボール拾い
17:30	アカデミーハウスでノート記入後，解散

図 3-8　ミズノゴルフアカデミーにおける 1 日の流れ

表 3-8 がアカデミーでの 1 日の流れである．朝礼で，一日の練習の流れとその日の注意事項を告げたのち，あいさつなどをしっかりと行うことを徹底する．これは，礼儀作法を身に付けるという目的があり，あいさつをすることを重要視しているからである．また，ゴルフ場や利用している一般客との関係をよくするために必要であると考えているからである．

その後，練習場に移動し準備体操を行い，一般客の練習が終わるとボール拾いが始まる．その後は，その日のレッスン予約に応じた時間割でコーチによるレッスンが始まる．2 時 30 分頃からハーフラウンドを開始し，終わり次第練習場に集合，ボール拾いをした後，アカデミーハウスでノートの記入を行い，各自解散となる．

第 3 項　ハーフラウンド

すべての一般利用客がスタートした後，ハーフラウンドを行う．ラウンドでは，1 組に対しコーチが 1 人帯同し，ラウンドレッスンを行う．

実地調査とインタビュー調査から，MGA でのラウンドの特徴として，ラウンド前に必ず目標スコアを決めることである．選手に合わせ目標スコアを決め，その目標を達成できるようにラウンドする．

また，ラウンドの場合早い段階で目標スコアを超えてしまう場合もあるので，3 ホールごとの目標スコアも合わせて設定し，3 ホールを 1 回戦として 3 回戦で 2 勝以上することを目標

にラウンドをすることが明らかになった.

第 4 項　ノート記入

MGA では，選手にノートの記入をさせていることが明らかになった．このノートは選手がその日行った練習の内容や，現在の目標に対する進捗状況など技術的なものを含め，日々の生活の中で感じたことなど，何を書いてもよいことになっている．また，そのノートの中で質問や相談事などを書いてもよいことになっている.
ノートを通じて，コーチが選手の状態や練習の理解度，現状把握をする助けとしている.
そのため，このノートを見ることで，コーチ間で選手が取り組んでいる課題を把握することができ，指導の中に一貫性を出すことが可能になる.

第 5 項　年代別の指導内容

MGA では，選手の発育発達に応じた練習内容を取り入れていることが明らかになった.
プレゴールデンエイジと呼ばれる 9 歳頃までの年代では，基本的な運動動作を習得する時期と考えており，ゴルフだけでなく，ゴルフ以外の多くの運動動作を経験することを重要と考えていることが明らかになった．ゴルフの動作では，特に感覚を身体に覚えさせるよう，方法を教えるのではなく，結果を伝え，その結果を得るようにショットをするような指導をすることが明らかになった.
ゴールデンエイジと呼ばれる 10～12 歳頃の時期の指導では，運動の理解ができる時期と捉え，運動やショットの内容を伝え，理解させることを目的としていることが明らかになった．また，神経系の発達が著しい時期とも捉えており，その際の運動として，朝のウォームアップの時間にコーディネーショントレーニングを取り入れ，神経系の発達を促す運動を行うとしている.
ポストゴールデンエイジと呼ばれる 13～15 歳頃では，「複雑な動きを少し取り入れる」と口述し，ショットや運動において複雑な複数の動きを複合させて行うようにさせていることが明らかになった．また，「持久力を身に付けることも目的に持久系のトレーニングを取り入れている」と口述し，持久系トレーニングを取り入れていることが明らかになった.
これは，スタミナを高めるのに適した時期とされており，それに沿った形で行われている.

第 4 章　アンケート調査

本章では，MGA に所属するジュニア選手に対して，ゴルフを始めた経緯，アカデミー以外での練習量, 指導者との関わり, MGA に対する意識などについてアンケーと調査を行い，調査を行った.
ジュニア選手への調査と同時に，選手の保護者に対しても，子どもの目標への理解度，練習内容の把握状況，MGA への今後の要望などについてアンケート調査を行った.

・アンケートの調査対象
本調査では，MGA に所属するジュニア選手で，2011 年 12 月 3 日・4 日と 2011 年 12 月 14 日･15 日の 4 日間に MGA 高麗川校･姉ヶ崎校でレッスンを受けた計 50 名を対象とし，質問紙を配布しアンケーと調査を実施した.
また，保護者を対象とする質問紙を同時に配布した．両親の対象数はジュニア選手と同数の 50 名を対象とした.

・アンケート実施日時：2011 年 12 月 3 日（土）～12 月 16 日（月）
調査用紙配布数（ジュニア選手）：50 枚
合計回収数（ジュニア選手）：29 枚（回収率 58%）
調査用紙配布数（保護者）：50 枚
合計回収数（保護者）：29 枚（回収率 58%）

・アンケート実施方法：
MGA 姉ヶ崎校，高麗川校において質問紙を配布及び回収した.
姉ヶ崎校では，12 月 3 日は筆者が直接配布，及び回収．12 月 4 日，14 日，15 日は姉ヶ崎校インストラクターの方が質問紙を配布，選手と保護者には後日郵送してもらい回収した.
高麗川校では，12 月 4 日は筆者が直接配布，及び回収．12 月 14 日，15 日は高麗川校インストラクターの方が質問紙を配布，選手と保護者には後日郵送してもらい回収した.

本研究では，MGA に所属するジュニア選手のゴルフを始めた経緯，普段の練習量，指導者との関わり，MGA に対する意識を分析することから，それらすべての項目を回答したものを有効回答とした.
また，保護者に対する調査では，子どもの目標への理解度，練習内容の把握状況，コーチとの関係性，MGA への今後の要望について分析することから，それらすべての項目を回答したものを有効回答とした．有効回答数はジュニア選手：29 枚，保護者：28 枚，有効回答

率はジュニア選手：100%，保護者：96.5%となった．

第１節　選手に対するアンケート調査

第１項　回答者属性

ジュニア選手を対象としたアンケート調査の回答者属性は以下の通りである．
年齢の期分けとして，プレゴールデンエイジ（～8 歳）・ゴールデンエイジ（9～12 歳）・ポストゴールデンエイジ（13～15 歳）・高校生以上（16～）の 4 つの属性に区分した．
図 4-1 は年齢構成のグラフである．年齢構成は～8 歳までのプレゴールデンエイジの選手の割合が 2 名で 7%，9～12 歳のゴールデンエイジの選手割合は 8 名で 28%，13～15 歳のポストゴールデンエイジの選手割合は 14 名で 48%，16 歳以上の高校生の選手割合は 5 名で 17%であった．

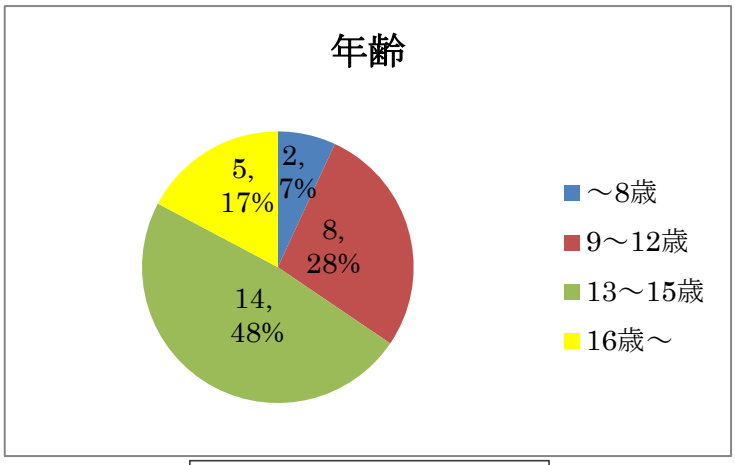

図 4-1　選手の年齢別人数とその割合

次に，所属ジュニア選手の競技力把握の為，ベストスコアごとにカテゴリー分けをした．カテゴリーとして次の 4 つのカテゴリーに区分けした．ベストスコアがアンダースコアの者（～71），5 オーバーまでの者（72～77），10 オーバーまでの者（78～82），それ以上の者（83～）．

図 4-2 はベストスコアごとに区分けした選手構成である．ベストスコアが～71 の者は 12 名で 41%．ベストスコアが 72～77 の者は 11 名で 38%．78～82 の者は 2 名で 7%．83 以上の者は 4 名で 14%となった．
ベストスコアが 5 オーバー以下の選手が全体の約 80%を占めており，比較的競技力の高い選手が集まっていることが明らかになった．

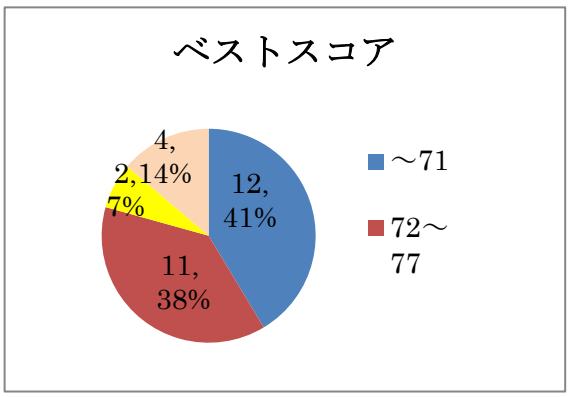

図 4-2　選手のベストスコアごとの人数とその割合

次に，ジュニア選手の競技歴で区分けする．福田らによると，ジュニアゴルファーの成績向上には，ゴルフへの早い取り組みが肝心（2003）とされており，競技歴が競技力に大きく影響を及ぼすことが考えられる．そこで，競技歴を参考に選手の属性分けをする．
競技歴の区分けとして，1 年ごとに区分けする．区分けした結果，競技歴が 1 年未満，1 年以上 2 年未満，2 年以上 3 年未満，3 年以上 4 年未満，4 年以上 5 年未満，5 年以上 6 年未満，6 年以上 7 年未満，7 年以上の 8 つの競技歴に区分けした．

図 4-3 は競技歴ごとに区分けした選手数と割合である．
競技歴が 1 年未満の者は 0 名，1 年以上 2 年未満の者は 1 名で 3%，2 年以上 3 年未満の者は 5 名で 17%, 3 年以上 4 年未満の者は 4 名で 14%, 4 年以上 5 年未満の者は 8 名で 28%，5 年以上 6 年未満の者は 3 名で 10%，6 年以上 7 年未満の者は 4 名で 14%，7 年以上の者は 4 名で 14%であった．

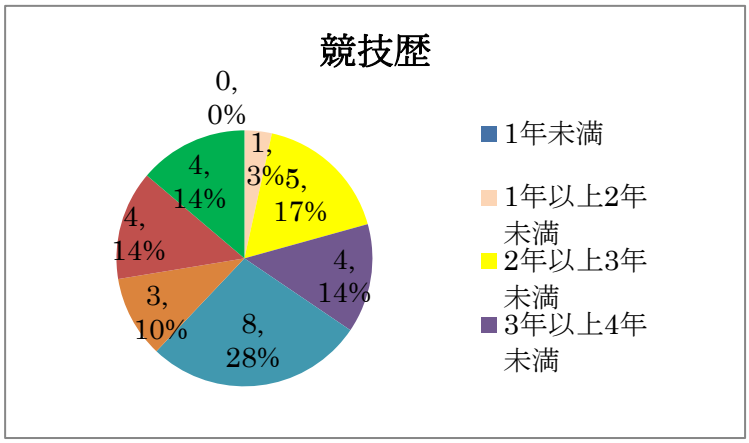

図 4-3　選手の競技歴別の人数とその割合

次に MGA に入っている期間で選手属性を区分けする．図 4-4 は入校期間を半年ごとに区分けしたグラフである．入校期間ごとの選手の割合は以下の通りである．6 ヶ月未満の選手は 5 名で 17%，7 ヶ月～1 年の選手においても 5 名で 17%，1 年 1 ヶ月～1 年 6 ヶ月の選手は 4 名で 14%，1 年 7 ヶ月～2 年以下の選手は 3 名で 10%，2 年 1 ヵ月～2 年 2 年 6 ヶ月の選手は 8 名で 28%，2 年 7 ヶ月～3 年と 3 年 1 ヵ月～3 年 6 ヶ月の選手は共に 1 名で 3.5%，3 年 7 ヶ月～4 年の選手は 2 名で 7%という結果となった．

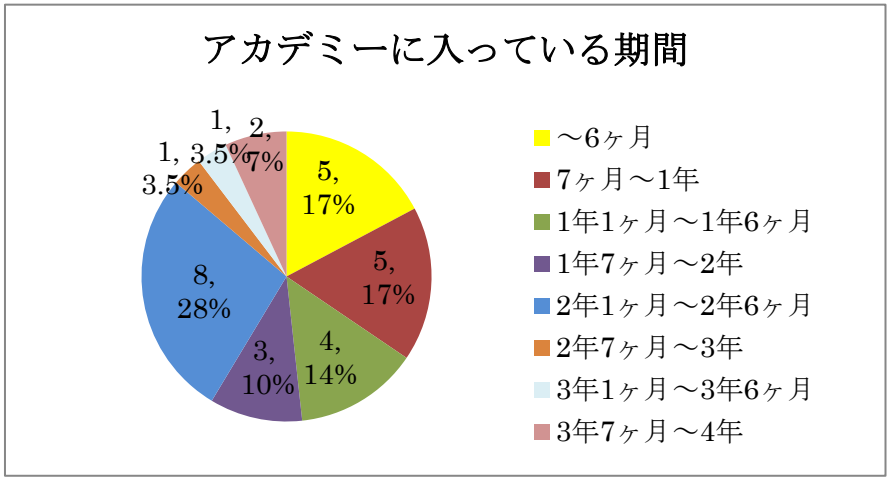

図 4-4　選手のアカデミー入校機関別人数とその割合

最後に，所属選手の年間試合数をもとに，選手属性を明らかにする．
図 4-5 より年間試合数では，年間 10 試合以下の選手が 11 名，それ以上の選手が 18 名で半数以上が年間多くの試合を経験している．年間約 20 試合の選手が最も多く 5 名で，その他はおおそよ 2 名から 3 名程度がおおいことがわかる．

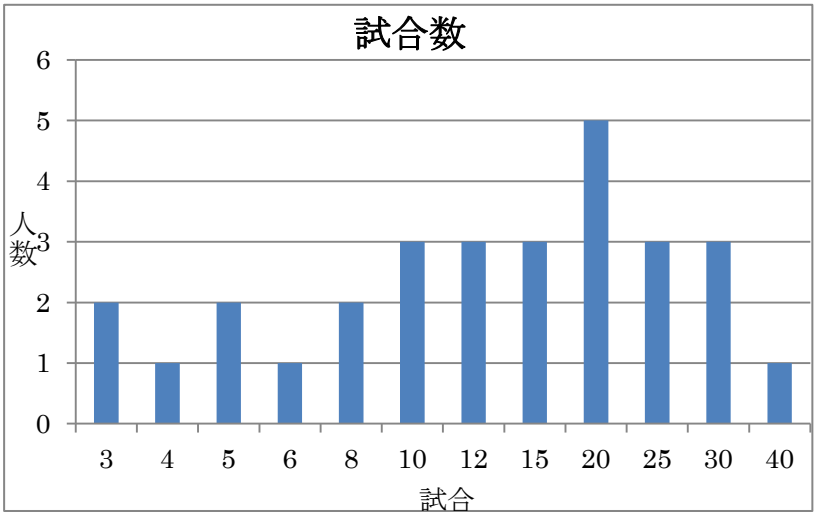

図 4-5　選手の年間試合数別人数とその割合

第 2 項　選手のゴルフに対する意識調査

本項では，MGA に所属するジュニア選手のゴルフに対する意識を分析する．

図 4-6 より，全体の 76%の 22 選手が大好きと回答した．また，24%の 7 選手が好きと回答し，多くの選手がゴルフを好きであることが明らかになった．

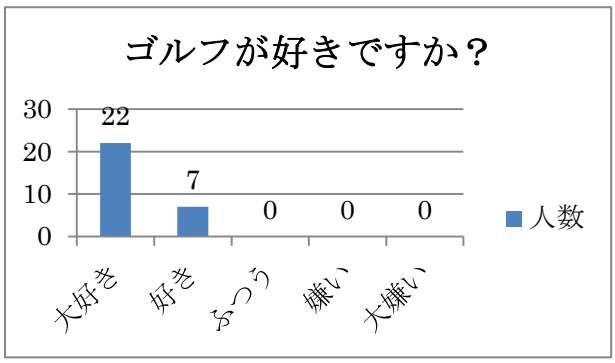

図 4-6　選手のゴルフに対する意識

図 4-7 は選手のゴルフを始めた理由のグラフである．16 選手が「親のすすめ」でゴルフを始めたことがわかった．また，5 選手が「兄弟がやっていたから」と回答した．2 選手が「友達がやっていたから」と回答し，6 選手が「それ以外」と回答した．

「それ以外」と回答した者では，「気が付いたら」「祖父母のすすめ」「自分から」「自分がやりたかった」「体験した」とそれぞれ回答し，22 選手が家族の影響を受けていることが明らかになった．

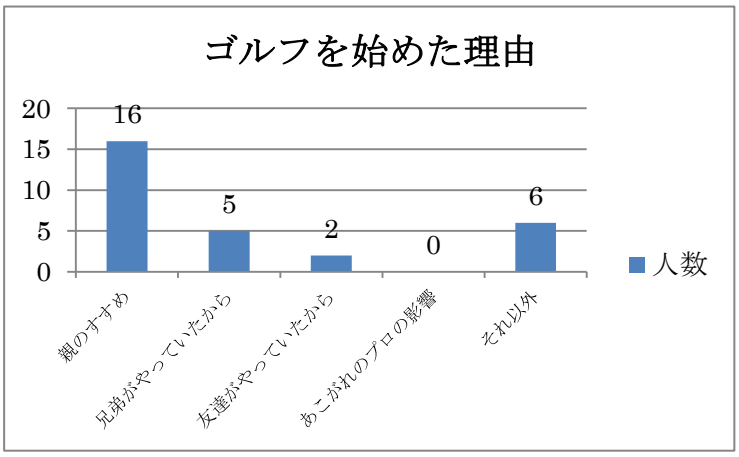

図 4-7　選手のゴルフを始めた理由

図 4-8 より，MGA を選んだ理由として，11 選手が家族のすすめで選択したことが明らかになった．10 選手が自分で選択し，8 選手で友達がいたから選択したことが明らかになっ

た.

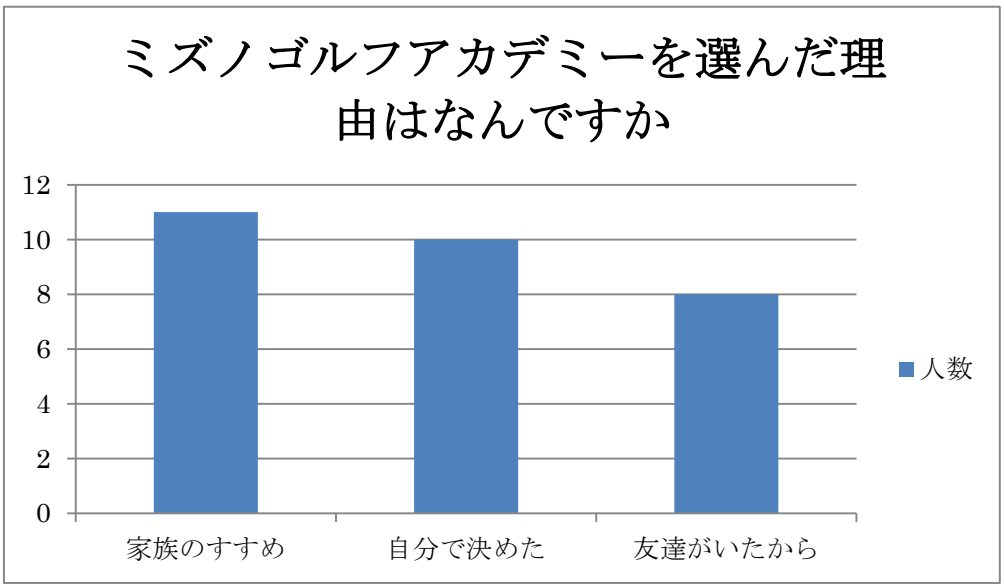

図 4-8　選手のアカデミーを選んだ理由

ミズノゴルフアカデミーに入った理由として，図（）より，26 選手がゴルフの競技力向上を目指していることが明らかになった．また，ゴルフが好きだったからと回答した選手が 4 選手であった.

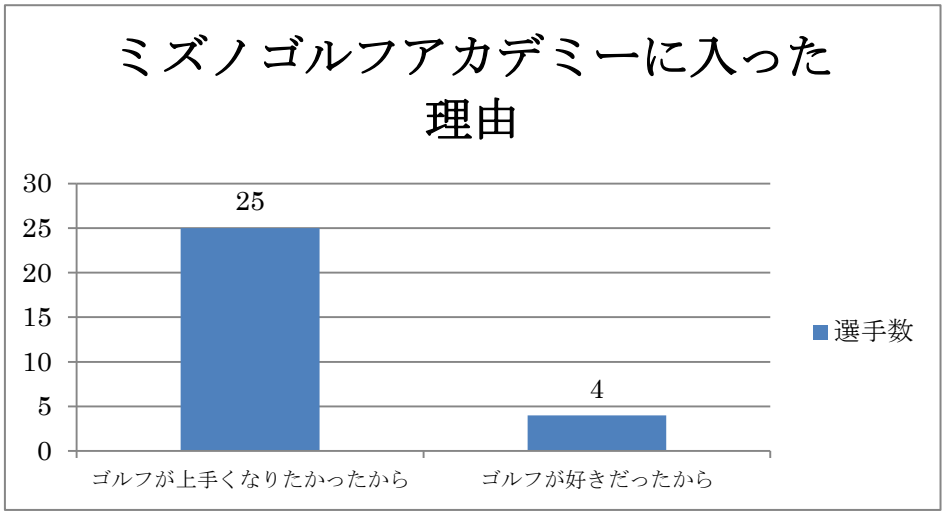

図 4-9　選手のアカデミーに入った理由

図 4-10 より，回答者の 86%の 25 人の選手がプロゴルファーと回答し，3 人の選手がその他と回答した. その他の回答の中の選手はゴルフ関係の仕事, 1 選手は会社員と回答した.

28 名の選手がプロゴルファー，またはゴルフ関係の仕事に就きたいと考えているということが明らかになった．

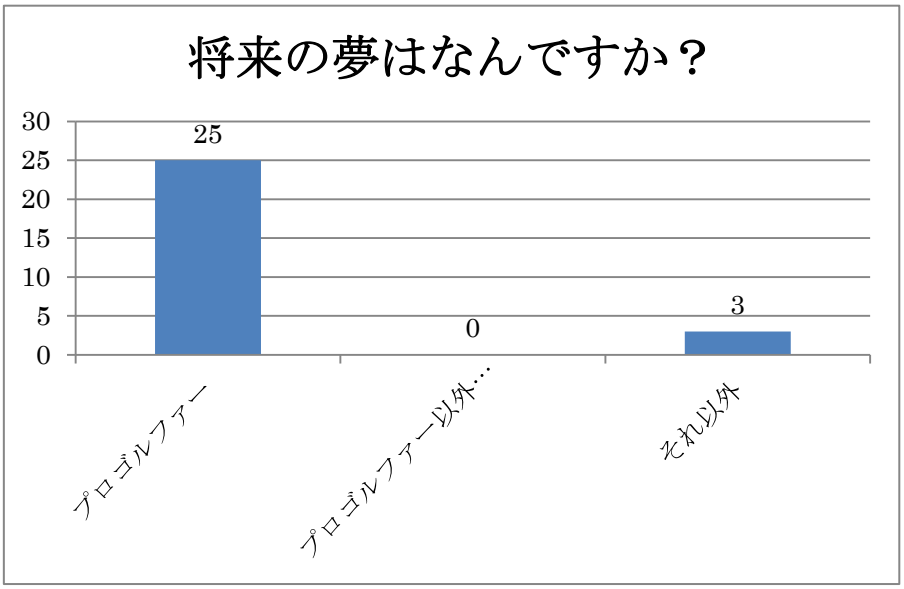

図 4-10　選手の将来の夢

また，図 4-11，18 選手が親やコーチが自分の夢を知っていると感じていることが明らかになった．また，7 選手が知っていると思うと回答し，25 選手が自身の夢を親やコーチが知っていると感じていることが明らかになった．その他，1 選手がわからないと回答し，1 選手が知らないと思う，2 選手が知らないと回答した．

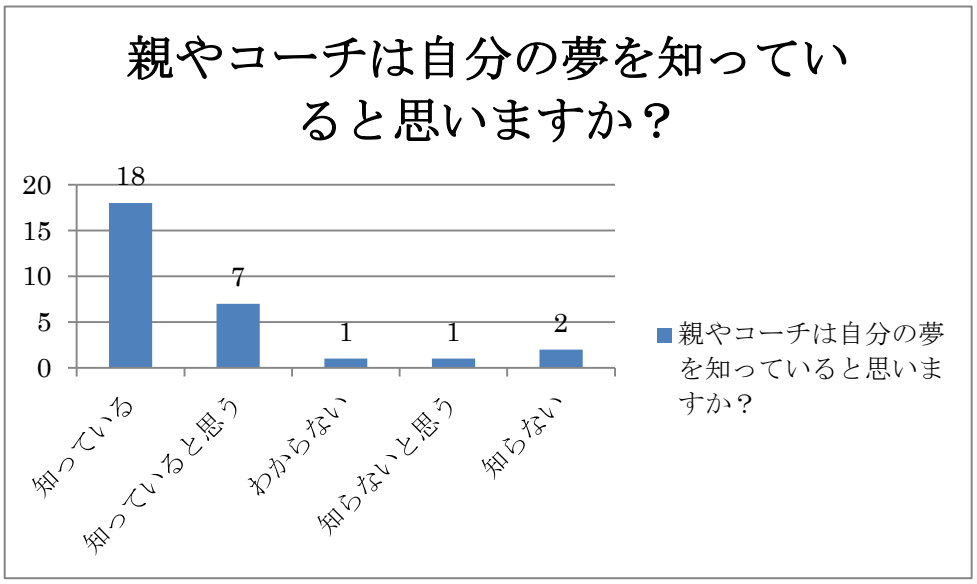

図 4-11　自身の夢に対する周囲への感じ

第 3 項　選手の練習状況の調査

本節ではジュニア選手が実際にどれくらいの練習量を持っているのかを分析する．
現在の指導者について，図 4-12 は現在教えてもらっている人を複数回答した選手と 1 人と回答した選手の割合である．
11 選手が複数の指導者に教えてもらっていることがわかった．また，18 選手が 1 人の指導者に教えてもらっていることに明らかになった．
次に，図 4-13 より，親に教えてもらっている選手は 7 選手，アカデミーのプロと回答した選手は 25 選手，アカデミー以外のプロと回答した選手は 12 選手で，教えてもらっている指導者としてアカデミーのプロが最も多いことが明らかになった．

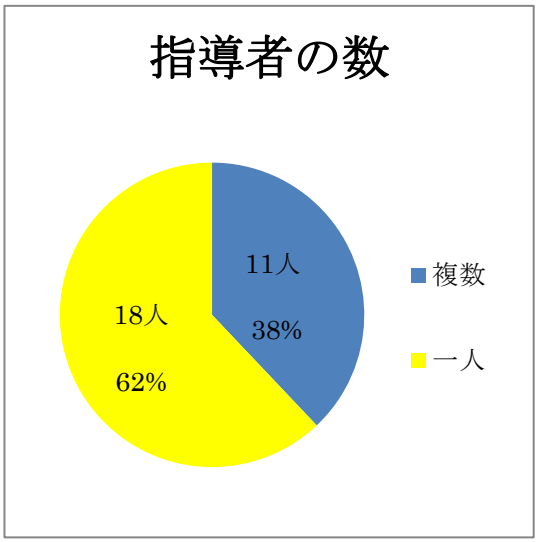

図 4-12　現在の指導者の数

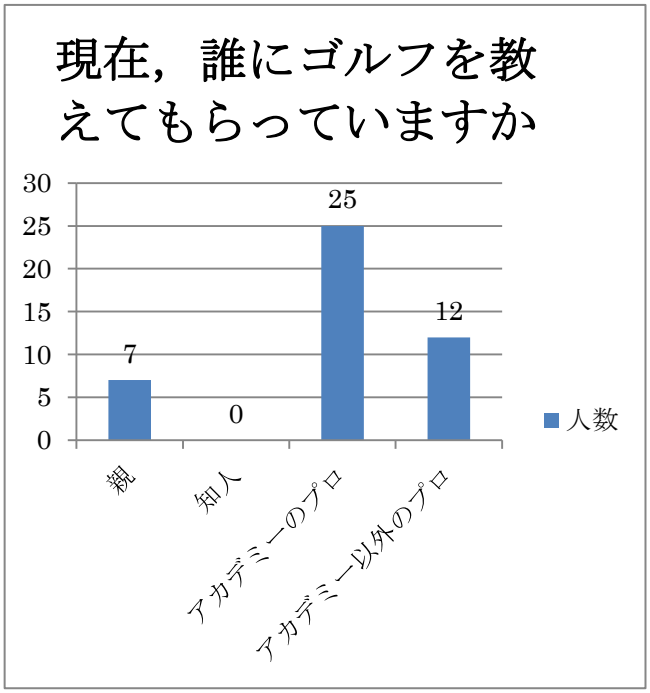

図 4-13　現在の指導者

図 4-14 は 1 週間でアカデミーに行く回数として，2 選手が 0 回と回答しアカデミーにはあまり一定なことがわかった．1 週間に 1 回と回答した選手が 21 選手で最も多いことが明らかになった．また，週 2 回練習に参加すると回答した選手は 6 選手であった．
多くの選手が週 1 回 MGA で練習していることが明らかになった．

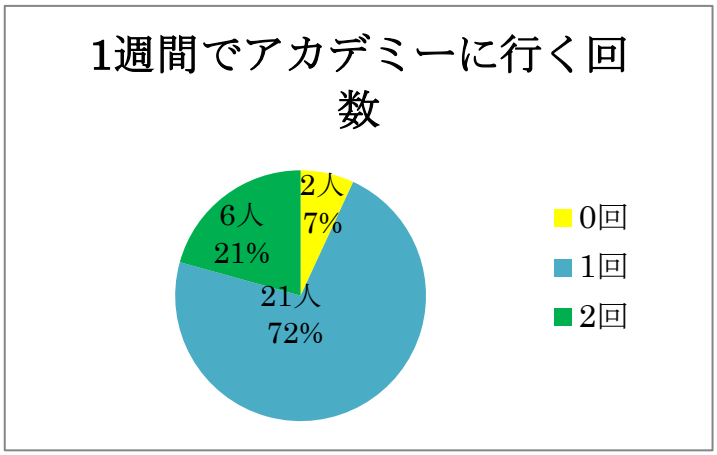

図 4-14　1 週間にアカデミーに行く回数

図 4-15 より，27 選手が指導内容を理解している回答し，2 選手が理解していないと回答し，多くの選手が理解した上で練習に取り組んでいることが明らかになった．

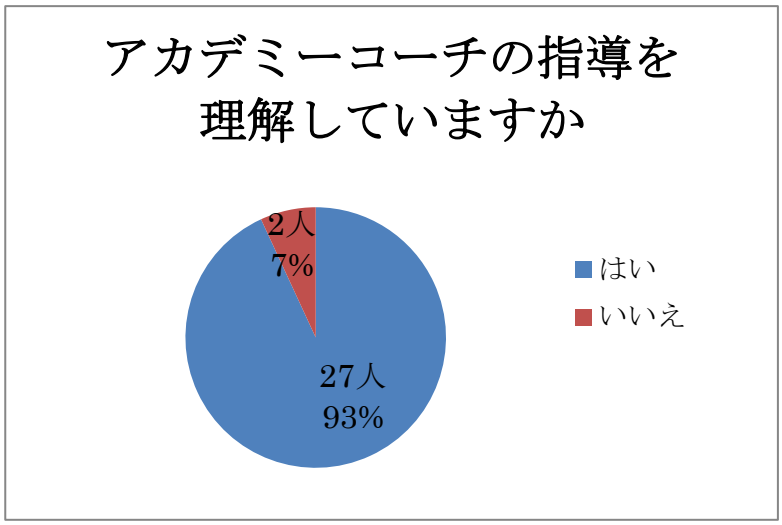

図 4-15　選手の指導内容に対する理解度

図 4-16 より，回答者 29 選手すべてが MGA での練習以外で練習を行っていることが明らかになった．

また，図 4-17 より，練習頻度は 1 週間に 2 回と回答した選手が 4 選手，3 回と 4 回が共に 2 選手，6 選手が 5 回，4 選手が 6 回と回答した．そして，毎日と回答した選手が 11 選手と最も多かった．

1 週間のうち 5 回以上練習に行く選手が 21 選手となり，多くの選手がほぼ毎日練習を行っ

ていることが明らかになった.

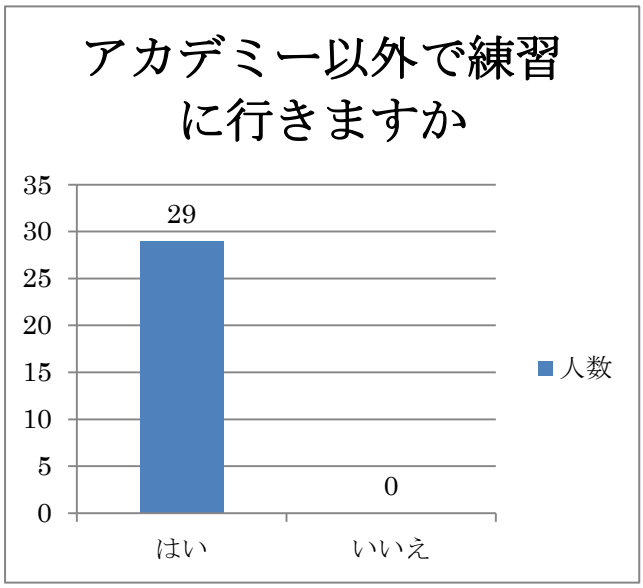

図 4-16　アカデミー以外で練習に行く人数

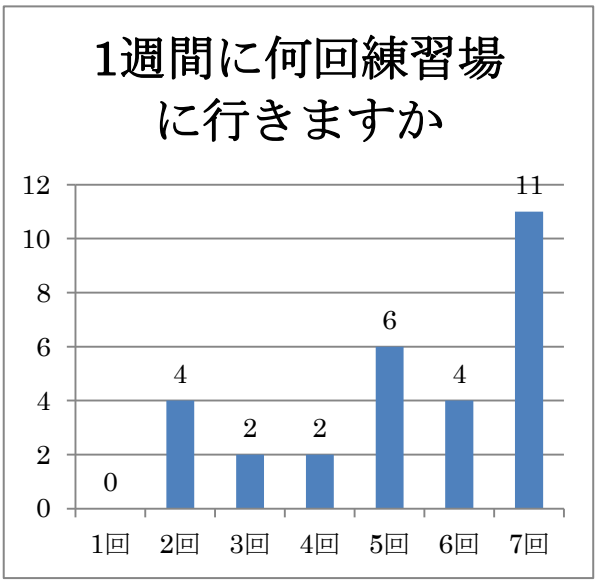

図 4-17　1 週間に練習場に行く回数

図 4-18 より，1 回の練習時間では，1 時間以上 2 時間未満の選手が 21 選手，2 時間以上 3 時間未満の選手が 7 選手，3 時間以上が 1 選手となり，1 時間以上 2 時間未満の練習時間が最も多いことが明らかになった.

また，1 回の練習量では，51～100 球の選手が 4 選手，101～150 球の選手が 4 選手，151～200 球の選手が 7 選手，201～250 球の選手が 8 選手，251～300 球の選手が 8 選手，301～350 球の選手が 1 選手となり，多くの選手が 150～250 球の練習量を持っていることが明らかになった.

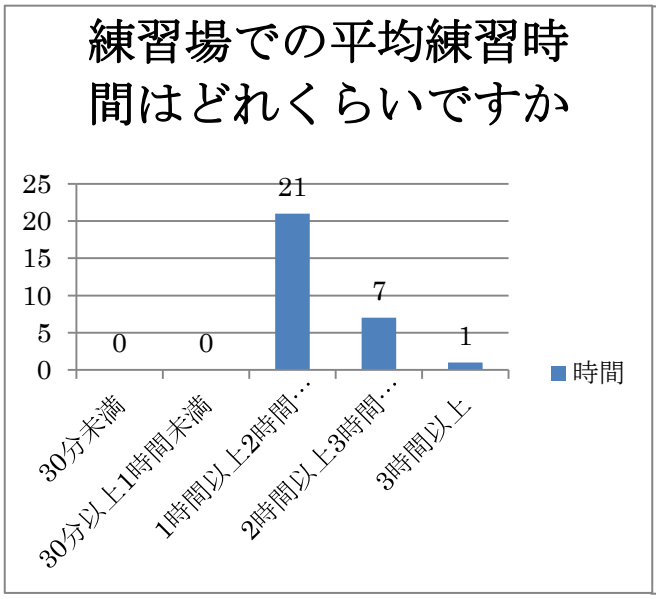

図 4-18　1 回の練習での練習時間

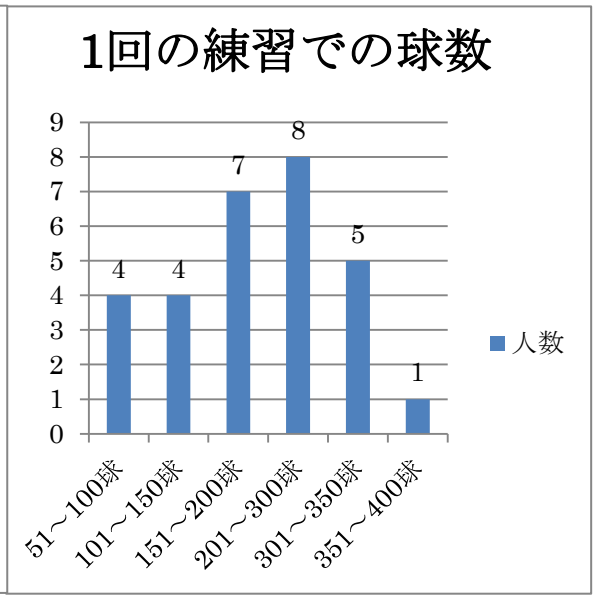

図 4-19　1 回の練習での球数

図 4-20 より，１ヶ月にゴルフコースに行く回数は，6 選手が 1~2 回，12 選手が 3~4 回，7 選手が 5~6 回，4 選手が 7~8 回と回答し，多くの選手が 1 ヶ月に 1 回以上ゴルフコースで練習を行っていることが明らかになった．

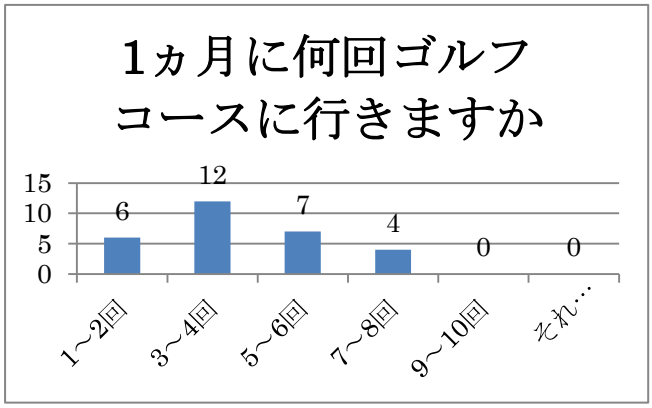

図 4-20　現在の指導者の数

第 4 項　選手のコーチとの関わりについての調査

本項では選手とコーチのかかわりについて分析する．
練習を行う上で，コーチと関わりは非常に大きな意味を持つ．コーチと選手がお互いに信頼関係を構築することで，練習がより効果的になる．
図 4-21 は調子が悪いと感じた際に相談する相手である．
相談する相手として，13 選手が親に相談することがわかった．また，アカデミーのプロに相談する選手も 13 選手であり，親に相談する選手と同数であった．アカデミー以外のプロに相談する選手が 2 選手，相談しないと答えた選手が 1 選手であった．
親とアカデミーのプロに相談する選手が共に 13 選手と最も多く，親とアカデミーのコーチとの関係性の良さが明らかになった．

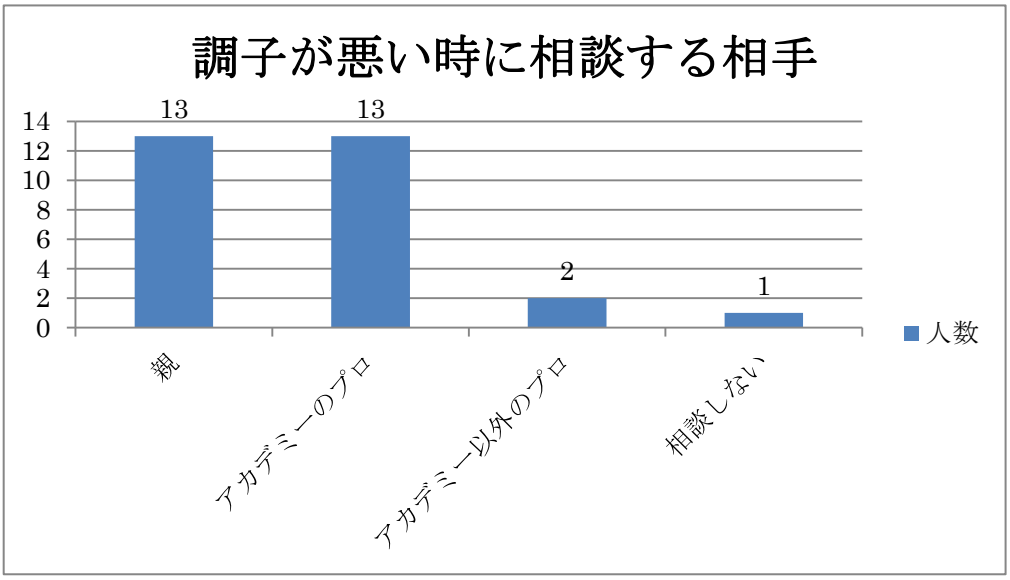

図 4-21　現在の指導者の数

また，図 4-22 より相談する理由として，13 選手が信頼できるから回答，12 選手が解決策を教えてくれる，4 選手が相談しやすいと回答し，選手と相談する相手の間に信頼関係がしっかりと構築されていることが明らかになった．

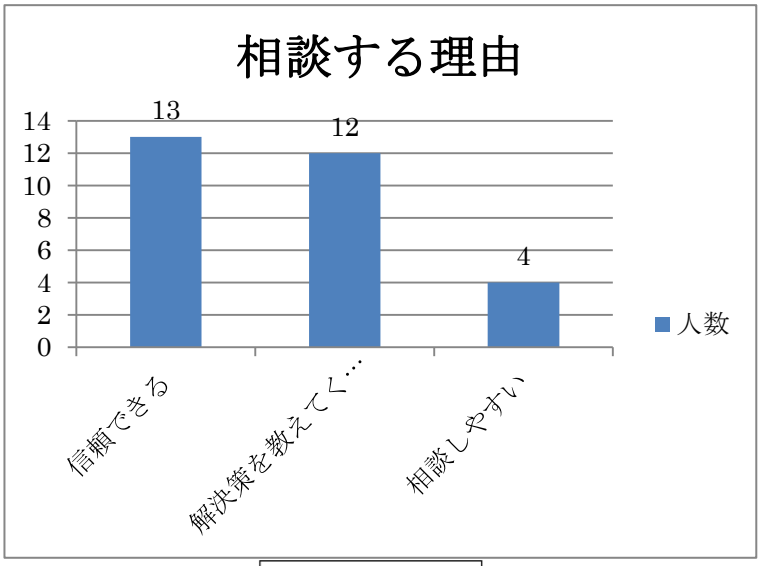

図 4-22　相談する理由

第 5 項　選手のアカデミーへの意識調査

MGA に入ったことで，ジュニア選手にどのような変化が起こったと感じているか意識調査を行い，それを分析する．

図 4-23 より，MGA に入り，29 選手中 14 選手が「ゴルフが上手くなった」と感じていることが明らかになった．また，同じく 14 選手が「友達ができた」と回答し，交友関係も広がっていることが明らかになった．

その他，3 選手が「自信が持てた」，2 選手が「ゴルフが好きになった」と回答した．

おおよそ半数の選手が「競技力が向上した」と感じていることが明らかになった．

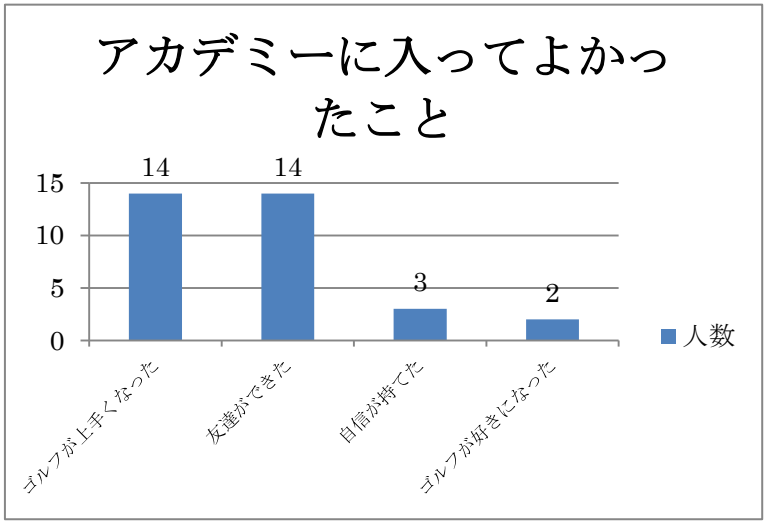

図 4-23　アカデミーに入ってよかったこと

第 2 節　保護者に対するアンケート調査

本節では，子どもの目標に対する理解度，練習内容の把握状況，MGA への今後の要望について分析する．

第 1 項　子どもの目標に対する理解度調査

図 4-24 より，24 選手の親が子供の夢を知っていると回答した．これは，対象の約 82%であり，多くの保護者が子供の夢を知っていということが明らかになった．また，4 選手の保護者が夢を知らないということがわかった．

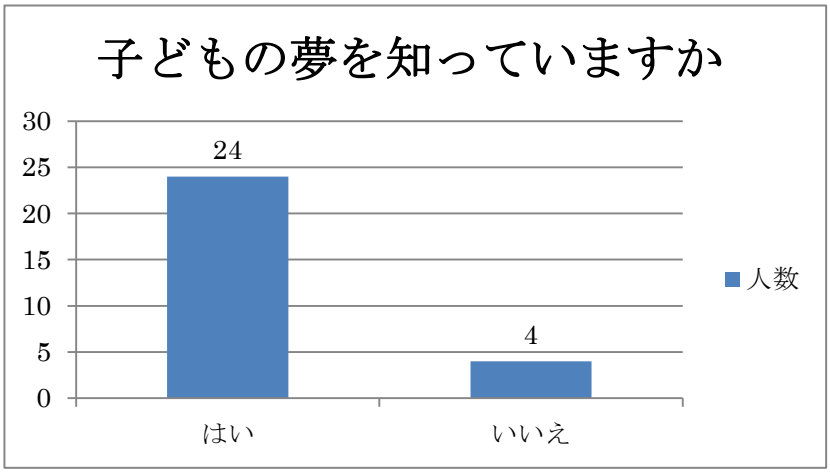

図 4-24　保護者の選手の夢の把握状況

次に，図 4-25 より，選手の目標を知っていると答えたのは 24 選手の保護者で，目標に関しても約 82%の保護者が知っているということが明らかになった．また，4 選手の保護者が知らないということがわかった．

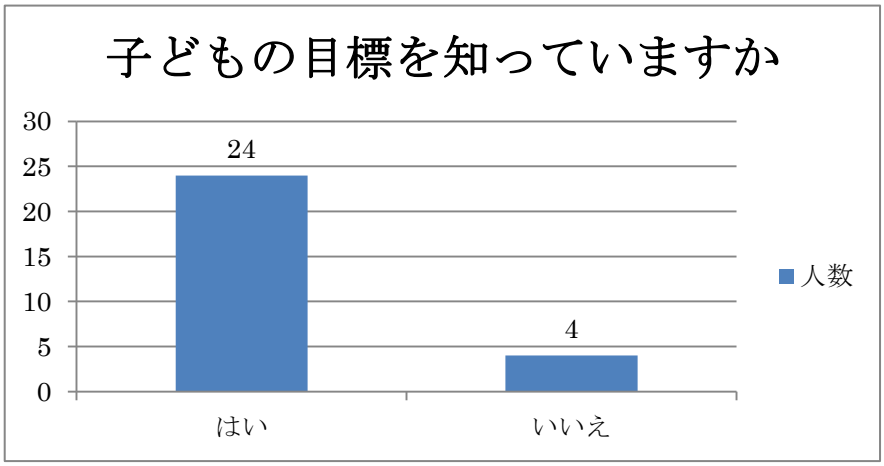

図 4-25　保護者の選手の目標の把握状況

図 4-26 より，23 選手の保護者が夢について話し合ったことがあるということがわかった．保護者が選手の夢を把握するために，保護者の主観でなく，正確に選手の夢を把握していることが明らかになった．また，5 選手の保護者が話し合ったことがないということがわかった．

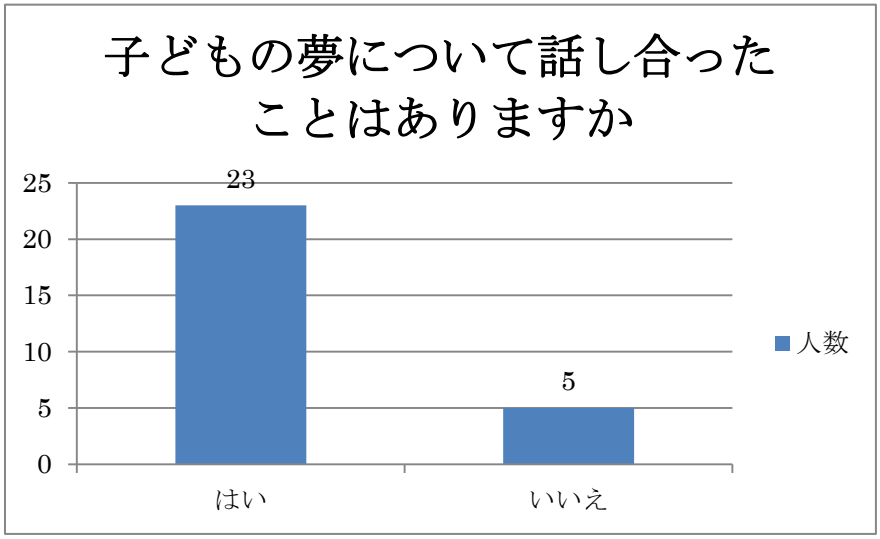

図 4-26　保護者の選手の夢の把握理由

第 2 項　保護者の練習内容把握状況調査

図 4-27 より，27 選手の保護者がアカデミーでの練習内容をしっていると回答し，ほぼすべての保護者が選手の練習内容を把握していることが明らかになった．また，1 選手の保護者はいいえと回答した．

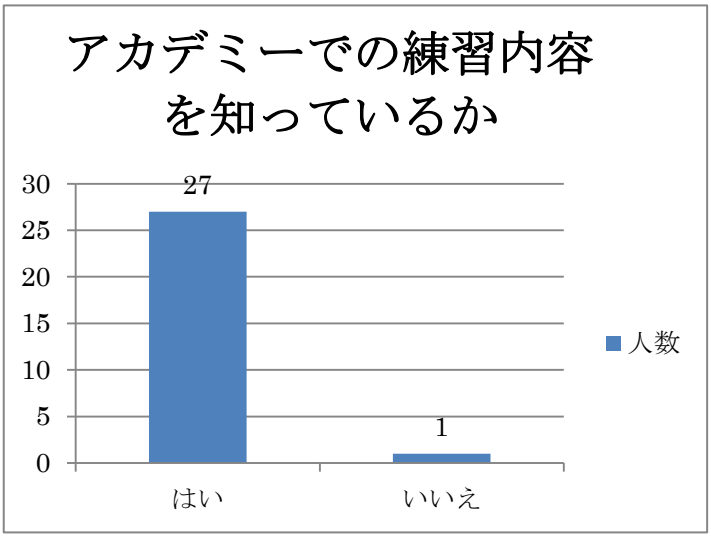

図 4-27　保護者の練習の把握状況

図 4-28 より，子どものゴルフの特徴や長所を知っていると回答した保護者は 27 名となり，知らないと回答した保護者は 1 名となった．ほとんどの保護者が子供の特徴や長所を把握していることが明らかになった．

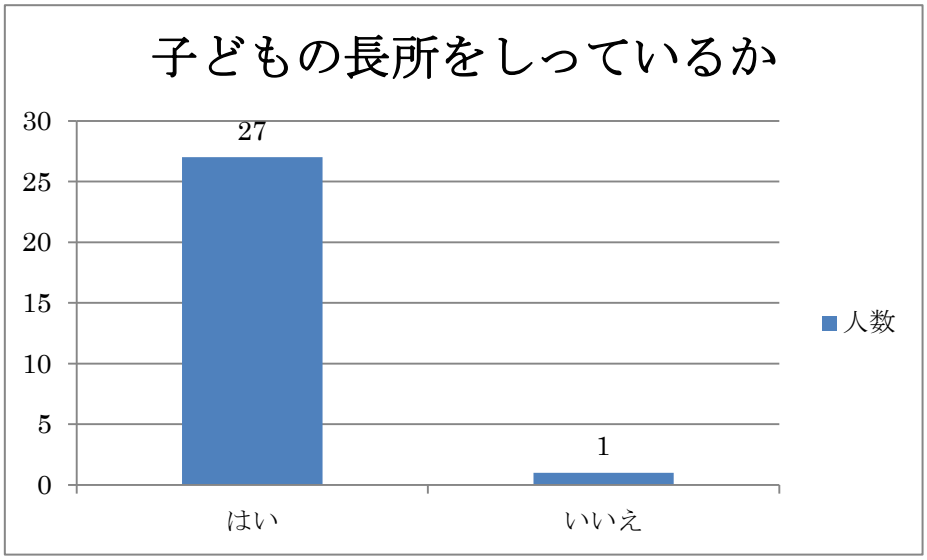

図 4-28　保護者の選手の長所の把握状況

図 4-29 より，26 選手の保護者が子供の取り組んでいる課題を知っていると回答し，現状の課題に関しても把握できていることが明らかになった．

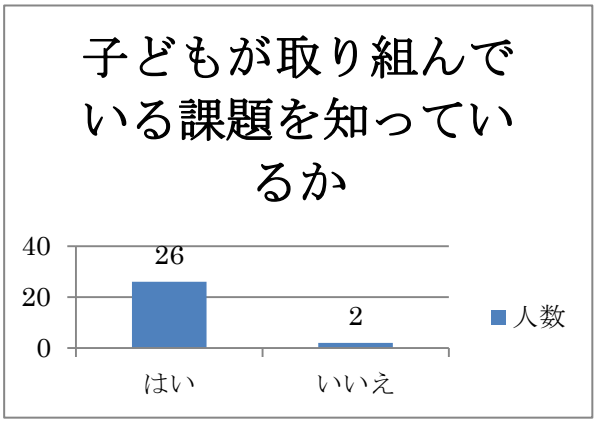

図 4-29　保護者の選手の課題の把握状況

また，現状の課題点として，図 4-30 より，図 4-29 で「知っている」と回答した保護者の内，25 選手の保護者から，取り組んでいる課題について詳しく説明回答があり，子どもの練習内容の現状把握を行えていることが明らかになった．
表は現状課題の回答一例である．

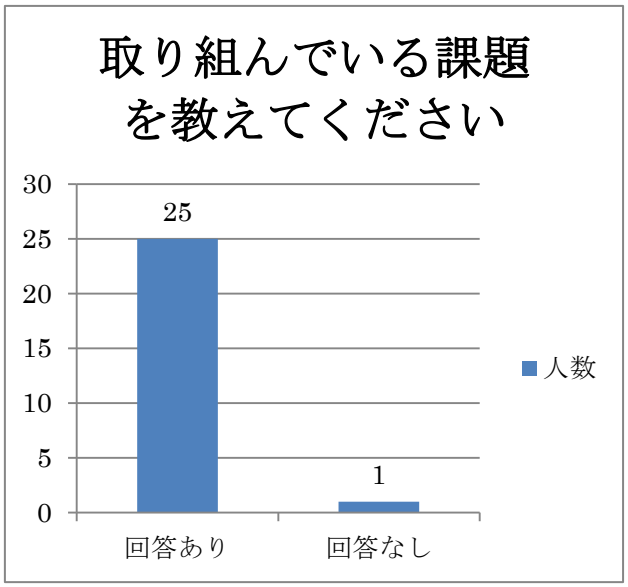

図 4-30　取り組んでいる課題を教えてください

（原文ママ）

例 1	**フックラインのパターの精度を上げるために，左手に力が入らないように修正している．**
例 2	インパクトで腰が開いてしまってボールに力が上手に伝わってないので，正しいインパクトの位置で打つようにしている．
例 3	テイクバックを上げる時の顔の位置．ダウンスイングで頭が下がらないようにする．
例 4	ショット，インパクト時に早く回転してしまうので，インパクト時のヘッドスピードが落ちてしまう．
例 5	アプローチの正確性を上げるためにスイングの始動を修正している．

表 4-1　取り組んでいる課題例　（原文ママ）

第 3 項　指導者との関係性の調査

本項では，保護者とコーチの関わりについて分析する．

図 4-31 より，保護者が相談相手としているのは，MGA のコーチを 8 名，MGA 以外のインストラクターを 3 名，知人を 14 名，相談しない 13 名という結果であり，調子が悪い時には，コーチや MGA 以外のインストラクターに相談せず，知人や相談せずに自身で考えることが明らかになった．

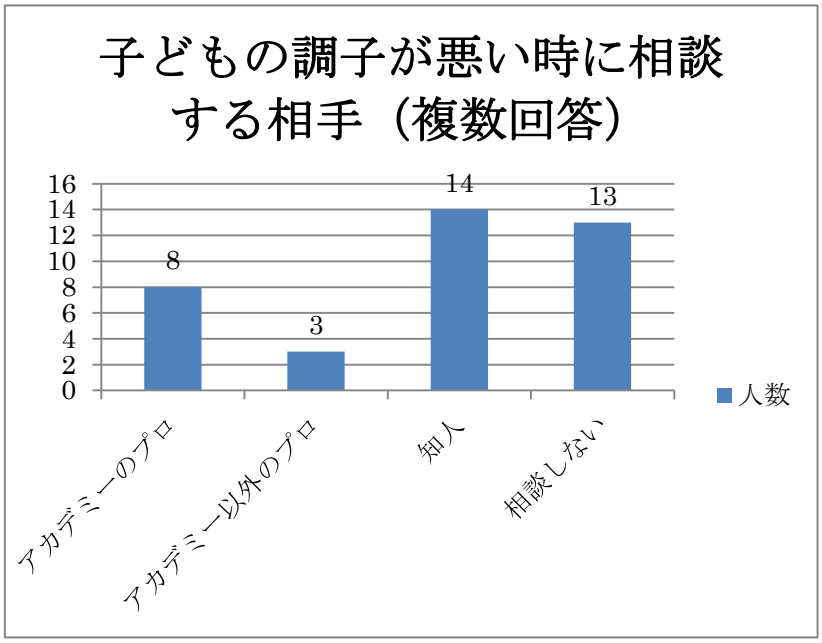

図 4-31　保護者の相談相手

そのなかで，保護者がアドバイスや助言を受ける中で，一番尊重するのは図 4-32 より，MGA のコーチが 21 名，MGA 以外のインストラクターが 4 名，ご自身の意見が 2 名，知人が 1 名という結果になり，MGA のコーチのアドバイス，助言を一番尊重しているという保護者が最も多いことが明らかになった．

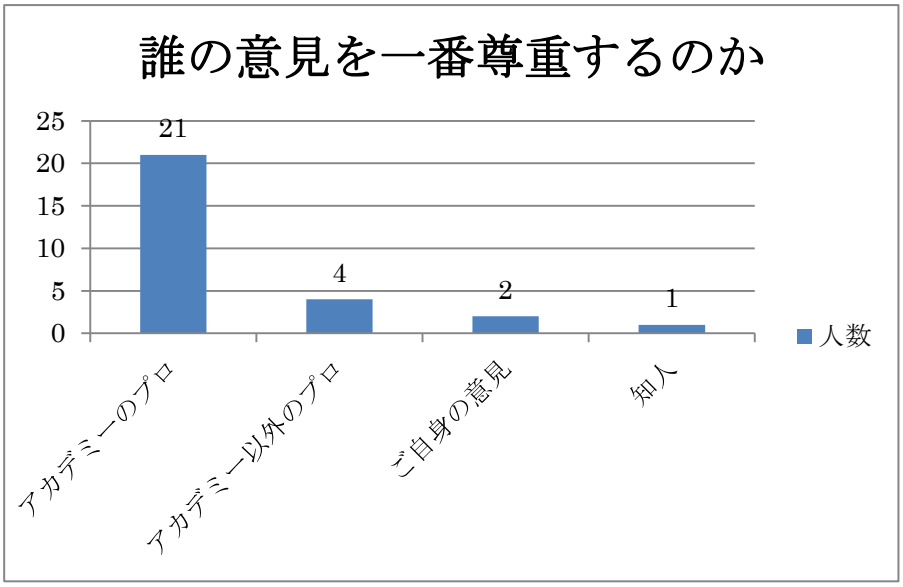

図 4-32　一番尊重している意見

第 4 項　ミズノゴルフアカデミーへの思い

本項では保護者が抱く MGA への思いを分析する.

保護者が MGA を選択した理由として大きく 3 つの選択理由に分けることができる. 1 つは知人の勧め，2 つ目に練習環境の良さ，3 つ目にジュニアに対する指導体制の 3 つに分けることができる.

回答のあった 24 名の理由を 3 つに分類すると図 4-33 になる．また，表 4-2 は各回答の一例である.

知人のすすめが理由と回答した者は 9 名，練習環境と回答した者は 9 名，指導内容を理由と回答した者は 6 名であった.

すすめと回答した保護者で多く聞かれた回答は「知人の勧め」「友人の勧め」であり，口コミで MGA を知り，選択したということが明らかになった.

練習環境と回答した保護者では,「コースで練習ができる」「比較的近い場所でコース練習ができる」などコースでの練習が可能であるということが大きな理由となっていることが明らかになった.

指導内容では,「レベル毎にレッスンしていただける」「ジュニア理論が確立されている」など個々に応じた指導をするという指導スタイルが大きな理由になっていることが明らかになった.

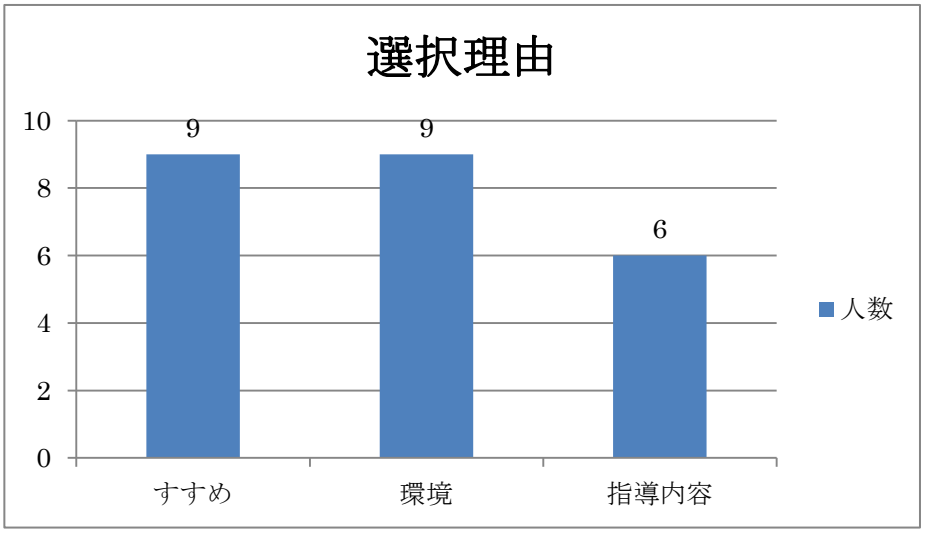

図 4-33　ミズノゴルフアカデミー選択理由

選択理由	回答
すすめ	知人のすすめで，娘がプロになりたいという夢に協力していただけると信じて.
すすめ	友人の紹介.
すすめ	知人の紹介と親子面談があり，その結果で決めた.
環境	練習環境の良さ，都内から比較的近い場所でコース練習ができる.
環境	コースでのレッスンがあるから.
環境	バランスの良い練習環境.
指導内容	ジュニア理論が確立されていて，ジュニアに対してサポートがしっかりしているから.
指導内容	ジュニアをレベル毎にレッスンしていただき，課題を与えられること.
指導内容	技術，メンタル，フィジカルとトータル的に指導していただけること.

表 4-2　選択理由（その他）　（原文ママ）

保護者の持つ MGA への願いとして「技術力はもとより，人間力の高い選手を育てること」「人間的に大きなアスリートに育ててほしい」「心・技・強い選手へのアドバイス」などの回答があり，多くの保護者の中で，技術はもちろんのこと，選手の人間性や礼儀などを合わせて身に付けさせてほしいと願いっていることが明らかになった.
表 4-3 は MGA への願いの回答結果の数例である.

1	技術力はもとより，人間力の高い選手を育てること
2	人間的に大きなアスリートに育ててほしい
3	心・技・強い選手へのアドバイス
4	礼儀正しい強いプレーヤーとなるべくレッスン指導していただきたい
5	教えていただいているプロを信頼しているので，今後とも子どもの個性に合った指導をお願いしたいと思います
6	明るく，楽しみながら，厳しく練習できる環境に
7	厳しさ

表 4-3　アカデミーに対する願い例　（原文ママ）

図 4-34 より，11 選手の保護者が MGA に対して改善してほしい点があることが明らかになった．また，17 選手の保護者は MGA の現状におおむね満足し，改善してほしい点を持っていないことが明らかになった.
保護者が改善してほしいと感じているものとして，練習環境についての要望と指導に関する要望に分けられた.

練習環境の要望としては，「セルフプレーの時間帯を早くしてほしい」「芝の上からの機会を増やしてほしい」「グリーンエッジからのアプローチ練習をさせてもらいたい」「春夏冬休みの平日のラウンド」という，コースやより実践に即した練習環境での練習，レッスンを望んでいることがわかった．
また，「他県にも開校してほしい」「平日のゴルフ場での開校」「平日のゴルフ練習場でのレッスンを増やしてほしい」などアカデミー校の増設と開校日の増加を望んでいることが明らかになった．その他，「高校生の先のサポート体制を作ってほしい」「大学生もレッスンをアカデミーで受講できるように」という，高校生卒業以降のサポート隊背の充実を望んでいることを明らかになった．

指導に関する要望としては，「ウォーミングアップ・トレーニング」「技術的な宿題やテストを定期的にしてほしい」「メンタル面強化」「メンタル UP について」という技術指導はもちろんのこと，その他トレーニングやメンタルトレーニングの充実を望んでいることが明らかになった．

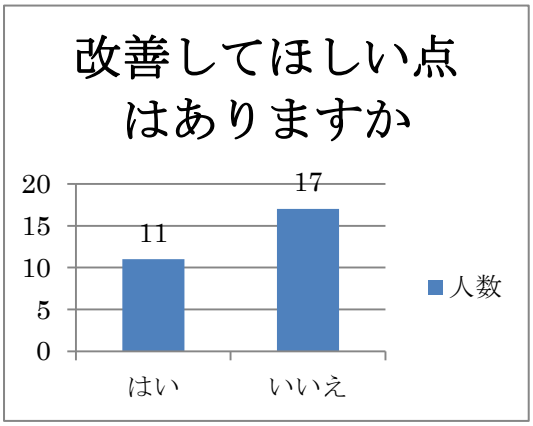

図 4-34　改善してほしい点があるか

次に子どもが MGA に入って何が変わったかという，MGA での成果について保護者がどう感じているのかである．

図 4-35 より，19 選手の保護者が「競技力が向上した」と感じていることがわかった．また，「礼儀が身についた」と感じている保護者は 12 名，「友達が増えた」と感じている保護者は 15 名，「挨拶ができるようになった」と感じている保護者は１０名であることが明らかになった．その他 10 名がそれ以外の成果を感じており，その内容として「リーダーシップが取れるようになった．小さい子の面倒を見れるようになった．」「気遣いが身についた．」と回答し，選手の責任感や人間性の成長を感じていることが明らかになった．また技術的な変化として，「細かいことを質問，理解するようになった．」「アプローチ，パターの大切さ」「技術的な短所がわかるようになった」「ゴルフの考え方，練習への取り組み」「直近の試合のことだけでなく，長期的な計画や課題を考えられるようになりました．」と回答し，選手のゴルフに対する向き合い方や理解について成長したと感じていることがわかった．

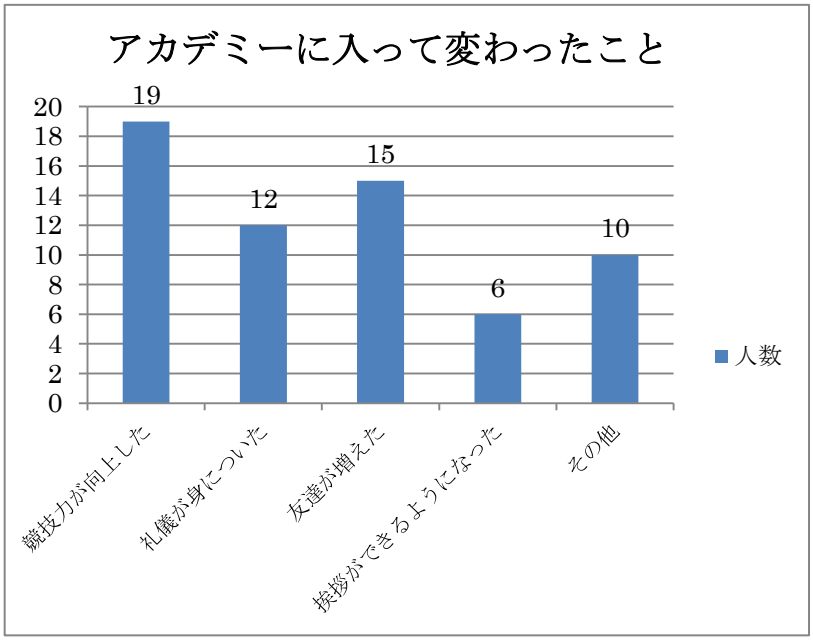

図 4-35　アカデミーに入って変わったこと

1	リーダーシップが取れるようになった 小さい子の面倒をより見れる様になった
2	リーダーシップが取れるようになった 小さい子の面倒をより見れる様になった
3	直近の試合のことだけでなく，長期的な計画や課題を考えられるようになりました
4	細かいことを質問・理解するようになった
5	アプローチ，パターの大切さ

表 4-4　その他　回答例　　（原文ママ）

第 5 章　考察

本章では研究結果から得られた知見を整理し，MGA の内容とスコットランドにおける育成システムの現状を，それぞれ検討する．

第 1 節　スコットランド競技力向上の要因

スコットランドにおける育成システムの現状と近年の成績向上の要因を考察する．
近年のスコットランド人選手の各競技大会での成績向上の要因として 2 つの理由を挙げられる．選手の発達に則したサポート，関係団体のサポートの 2 つの要因があり，それらについて考察していく．

第 1 項　選手の発達に則したサポート

スコットランドにおける育成システムは Firstclubgolf をゴルフの紹介として全小学 5 年生（9 歳）に学校プログラムで行った後，選手成長や技術のレベルに応じた指導や支援を行うシステムを構築していることが明らかになった．選手の技術や競技力が増すにつれ，より専門的な指導と環境が与えられるようになり，ゴルフの入門の段階から，プロや世界レベルの競技力を持つまでの一貫した指導システムが構築されている．
Player pathway では, レベルが上がるにつれ, 個人レッスンの時間と回数が増加していき，アカデミーの最終学年では，すべての時間が個人レッスンとなり，それぞれの状況や課題に合わせ，個々に対応していく方法をとり，技術指導だけでなくトレーニングなどについても大学やスポーツ学会の専門スタッフの指導の下行われ，総合的な選手の育成が行われることが明らかになった.

第 2 項　関係団体のサポート

スコットランドにおけるシステム　スコットランドスポーツ庁，スコットランドスポーツ学会，スコットランドゴルフ協会の協力体制が挙げられる．それぞれの団体が，役割を分担し，一体となった選手支援が行われていることが明らかになった.
国のサポートとしては，スポーツ庁が必要な支援策を打ち出し，ゴルフの正しい普及のための方策として Firstclubgolf をスコットランドもすべての小学校に普及した. 2009 年度では, 38,784 人の子どもにゴルフを紹介することができ, 273 の clubgolf センターで 10,436 人の子どもがプログラムを受けた．また，才能ある選手には国の管理する練習施設やトレーニング施設を選手に開放するなどの方策をとり，選手のサポートを行っていることが明

らかになった．一貫指導システムの構築で必要な要素である，

第 2 節　ミズノゴルフアカデミーの考察

第 1 項　指導者のサポート

先行研究で専門的なコーチによる基礎的な指導の必要性が述べられており，コーチの資質が選手の育成に大きな影響を及ぼすことは明らかである．その中でインタビュー調査から，MGA では指導者の選定条件として，PGA のコーチライセンスを持つ者で，日本体育協会のジュニア教師の資格を持つ者としている．このことから，ゴルフの基礎を教えることのできる知識を持ち，なおかつ子どもに対する指導を行うことのできるコーチが選手の指導にあたっていることが明らかになった．また，コーチの中には，米国で多くのプロゴルファーやトップアマを育成してきた実績のあるジョー・ティール氏のもとで複数年指導経験を持つコーチをいることから，ジュニア指導，育成という専門の知識を持ったコーチが指導にあたっていることが明らかになった.

また，MGA においては，選手の発達や技術の向上に合わせてクラス分けを行い，上位のクラスに行くほど，より専門的，個々の状態と目標に合わせた指導が受けられるシステムが構築されている.

J3 クラスではグループレッスン，J2 クラスでは個人レッスンを受けることができるようになり，J1 クラスでは個人レッスンを基本として，より多くの時間コーチと 1 対 1 で練習を行える環境にあることが明らかになり，スコットランドと同様個人に合わせた指導が行えていることが明らかになった.

また，クラブフィッティングを 3～6 か月に 1 回行い，選手の身体に適したクラブを選択することができる．自身の身体に適したクラブを使用することは効率よくスイングを身に付けるうえで効果的であるとされている.

第 2 項　目標設定

選手と保護者に対してアンケート調査を分析した結果，夢や目標の共有の徹底が明らかになった.

調査対象となった 25 選手がプロという明確な目標を持ち，日々の練習に取り組んでいることが明らかになった．また，全体の 86%となる 25 選手が親は自分の夢を「知っている」「知っていると思う」と回答し，実際に保護者に対するアンケート調査においても，全体の 82%である 24 名の保護者が「子どもの夢を知っている」「目標を知っている」と回答した．その根拠として，子どもと話し合いを持ったと答えた保護者は 23 名であり，選手と保護者の間で，夢や目標の共有がしっかりとされていることが明らかになった.

目標設定によりモチベーションに大きな影響を与えてしまう [7]ため，何を練習するのか，しっかりと目的を持たなければならない [9]．互いに確認しあいながら，方向性を常に持ち日々の練習を行っており，練習に一貫性が生まれると考えられる．

また，MGA では練習後にノートを記入することを義務化している．ノートを記入し，コーチがチェックすることで選手の日々の練習状況確認と，練習の一貫性の確保に役立てていることが明らかになった．

アンケート調査対象とした選手すべてが MGA 以外で練習を行っていることが明らかになり，その多くが親やインストラクターに指導を受けていることが明らかになった．

そのため,外部での練習と MGA での練習に一貫性を持たせる必要があり,その中で MGA では必ず選手に主となるコーチを選択させ，そのコーチの方針にそった指導を行うという口述をえた．そこで，MGA のコーチと外部のインストラクター間の指導方針の差異を生まないようするため練習の後，ノートを記入させることで，練習内容の浸透や現状の課題を明確化させるとともに，外部のコーチ間との一貫性を保つ手段としている．その他，選手の日々の生活や悩みなどを把握する方法としている．

第 3 項　指導方針

指導方針のなかで，スコットランドでは Clubgolf の中で，ショートゲームから始め，年齢を重ねるにしたがい，距離のあるショットの指導を行っていく．MGA においてもジョー・ティール氏の指導方針である，パター・アプローチなどのショートゲームで感覚を身に付けた後，順に長いクラブの指導に入る．このように，技術指導の内容に関してはスコットランドと MGA 共に同じステップで指導を進めていくことが明らかになった．

第 4 項　練習量

アンケート結果から，対象となった 29 選手すべてにおいてアカデミー以外の日で，練習場で練習を行っていることが明らかになった．

また，練習量に関しても，1 週間に毎日練習に行く選手が最も多く，5 回以上練習に行く選手が回答者全体の 72%であり，平均練習時間では全員が 1 時間以上を費やしていることが明らかになった．球数においても 150 球～350 球の間の選手が最も多いことから，先行研究から，「毎日」「長時間」「多くの球数」を練習することが，強化に繋がっている [2]とされており，練習量において選手の強化に繋がっていると考えられる．

第 5 項　MGA の成果

選手に対する「アカデミーに入ってよかったこと」という質問に対し，29 選手中 14 選手

が「ゴルフが上手くなった」と回答し，保護者では「アカデミーに入って変わったこと」という質問では，28 名中 19 名が「競技力が向上した」と回答した．このように，MGA に所属しているおおくの選手，保護者共に競技力の向上を実感しており，MGA での指導が少なからず競技力向上の一助となっていることが考えられる．競技成績においても，2 年連続で関東大会の優勝者を輩出し，プロのトーナメントに参加する選手も輩出していることから，MGA で指導を受けることは，競技力向上につながっていることが考えられる．

第 6 項　課題点

ゴルフの技術を指導するスタッフはジュニア指導の専門家がそろっているが，その他のサポートスタッフの存在が少ないことが挙げられる．インタビュー調査の結果「栄養士やメンタルトレーナーなどの専門スタッフを雇いたい」との口述を得，できない理由として「人材がいないのと，いても雇うだけの資金がない」と口述を得た．このように 1 企業が独自に運営するシステムであり，そこを補う施策が必要であると考える．
コーチに関しても、「技術指導だけをするインストラクターは多く存在しているが、選手を育てるコーチと呼べる人材が少ない。」と回答を得、ジュニア指導者の育成が必要であると考えられる。

また，練習環境として，コースでのレッスンが行える利点があるが，週末だけの開講であり，アンケート調査からも，平日の開講を望む声や，開講時間を増やしてほしいなどの声が聞かれた．

しかし，現状ではコーチの数が不足しており，これ以上の時間の開講は難しいことがインタビュー調査から明らかになった．また，コーチを雇う資金もないことから，コーチ不足が大きな問題であることが明らかになった．

第 6 章　結論

本研究は，日本における育成システムの現状を把握し，近年活躍が見られるスコットランドとの現状とを比較し，現在，日本における選手育成の課題点を明らかにし，今後の選手育成のあり方を示唆するものである．

ミズノゴルフアカデミーの選手育成システムと海外の育成システムと比較した際，海外の育成システムとミズノゴルフアカデミーには多くの類似点があった．

具体的には練習内容，練習環境を見た時，海外のものと比較しても遜色ないと考える．選手の競技力ごとにレベル分けをし，個々の状態や課題に則した指導体制やコースでの練習環境を持ち合わせている．また MGA 以外においても選手の練習量は多く，先行研究で述べられている，練習量の確保や専門的なコーチによる基礎的指導について，そのどちらも備えていることがうかがえ，競技力を向上させるシステムとして妥当性を持つと考える．

しかしながら，課題点も多くみられた．今後選手育成システムのさらなる発展を望むために取り組む課題点として 3 点が挙げられる．

まず 1 つ目は，開講日の増加とより密度の濃い指導を行うために，コーチの数を増やす必要があり，ジュニア指導の専門知識を持ったコーチの養成プログラムの構築とコーチの要請が不可欠であると考える．

2 つ目に，アカデミー後のサポート体制の構築が挙げられる．スコットランドでは，選手がアカデミーを卒業した後にも支援プログラムが存在し，選手がプロとして世界，ヨーロッパレベルで競技を行えるようになるまでのサポート体制が充実している．しかし，現状ミズノゴルフアカデミーでは高校生までが支援対象となり，その後の支援は行っていない．調査の結果，指導者の人数不足，環境条件の不備等が見受けられ支援をできる状況にない．しかし，将来的には支援の体制を整えなければならないと考える．現在は高校と提携しているが，今後は大学とも提携することで，大学へのコーチ派遣やアカデミーでの練習を行うことで，高校以降の指導体制を構築できると考える．

3 つ目に，日本ゴルフ協会などの中央団体との関係の見直しが挙げられる．現在はミズノ独自で運営しているが，今後は協会との関係の見直しが必要であると考える．その形として，選手育成をアカデミーが行い，その支援や人材の派遣を協会が行うという体制が良いのではないかと考えるに至った．

協会と一体となりシステムを進めるのではなく，図 6-1 のように協会がアカデミーやスクールの要望する人材の派遣，紹介をする仲介役・人材バンクのような体制を作ることを提案する。

MGA としては、人材発掘や育成に対する資金負担を減らすことでき、協会としても、育成・強化に対し資金をあまり負担することなく、ジュニア育成が行えるということで、お

互いに負担を減らすことができるのではないかと考える。このような負担軽減で生まれる資金などをより密度の濃い指導・サポートに繋げることができるのではないかと考える。

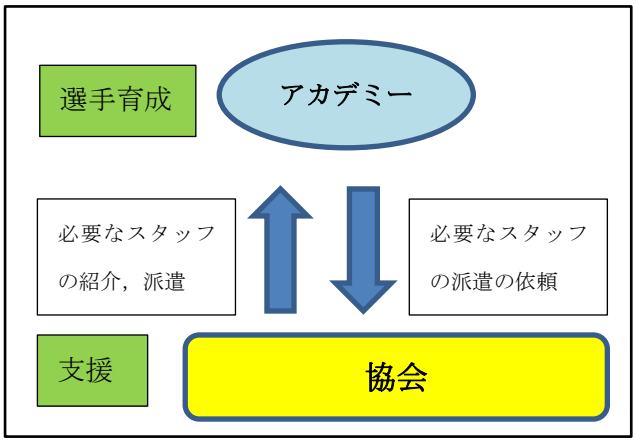

図 6-1　協会との関係図

MGA の選手育成システムはスコットランドのものと比べ規模は小さいが，指導内容は遜色ないものとなっている．

今後，MGA のような練習環境と専門的なコーチの指導を行うアカデミーに，協会が指導者やサポートする各種役割の人的資質が増加することで，より多くの将来性のある選手が育成されるシステムになるのではないかと考える．

引用・参考文献

1) 伊藤衛・渡辺隆詞・嶋谷・誠司；ゴルフ指導に関する基礎的研究：アドレス時における至適スタンスの検討，神奈川大学国際経営論集 10:251-265，1996
2) 井上透；韓国におけるプロゴルファーの強化・育成に関する研究，早稲田大学大学院スポーツ科学研究科リサーチペーパー，2010
3) 後明正潤；我が子をプロゴルファーにする方法，日東書院，p28，2010
4) 笠原彰；ゴルフ選手における心理サポートに関する事例研究，作新学院大学紀要 17;51-62，2007
5) 片山健二・八代勉；ゴルフ練習場及びゴルフ場の社会的責任・役割と経営戦略，2006
6) 蒲生晴明；見つけ，育てる，未来のアスリート（最高のパフォーマンスを発揮するために：ジュニアからの選手発掘・育成とは），体力科學　53　p74-81，2004
7) 倉石平；バスケットボールのコーチを始めるために，日本文化出版，p55，2005
8) 社団法人日本プロゴルフ協会；ジュニア基本ゴルフ教本，社団法人日本プロゴルフ協会，1999
9) 社団法人日本プロゴルフ協会；ジュニア基本ゴルフ教本　みんなでゴルフ，財団法人日本ゴルフ協会，p45,47，1999
10) 福田康夫・蝦名謙一；青森県ジュニアゴルファーの成績変動についての横断的分析，八戸工業高等専門学校紀要　第 38 号，2003
11) 松原英輝・入口豊・中野尊志・西田裕之・中村泰介；フランスの青少年サッカー選手育成システムに関する研究（Ⅰ），大阪教育大学紀要　第 4 部門　第 55 巻　第 1 号 55-70 頁，2006
12) 松本光弘；サッカーの指導過程に関する試案，筑波大学体育科学系紀要 12;247-260，1989
13) 茂木宏一；なぜ日本人ゴルファーは韓国人に勝てないのか，株式会社エンターブレイン，p97.p100.p183，2010
14) 横井信正；　ジュニアゴルファー育成方法論　　弓削商船高等専門学校　紀要　第 24 号　2002
15) Clubgolf Developind the Junior in Scotland. Official homepage; http://www.clubgolfscotland.com/，2011/8/5
16) Scottish Golf Union. Official homepage;　http://www.scottishgolf.org/, 2011/12/25
17) 日本ゴルフツアー機構 - The Official Site of JAPAN GOLF TOUR; http://www.jgto.org/, 2011/12/2
18) 日本女子プロゴルフ協会　Official homepage;　http://www.lpga.or.jp/, 2011/12/3

19) Official World Golf Ranking; http://www.officialworldgolfranking.com/home/default.sps, 2012/1/2
20) Clubgolf Scotland, Developing Junior Golf in Scotland, our strategy 2010-2014; http://www.clubgolfscotland-youth.co.uk/documents/clubgolfStrategy201014fulldoc.pdf, 2011/11/15
21) sportscotland the national agency for sport, Scotland's junior golf strategy; http://www.sportscotland.org.uk/NR/rdonlyres/9900D488-3BFB-4A68-9A2C-85317B31E520/0/ClubgolfStrategyDoc.pdf, 2011/11/20
22) Royal Canadian Golf Association, Long-Term Player Dvelopment Guidde for Golf in Canada; http://www.rcga.org/_uploads/documents/LTPD_Flyer.pdf, 2011/12/5
23) 社団法人日本トライアスロン連合，（JTU）競技者育成プログラム；http://www.jtu.or.jp/news/2010/pdf/2010athletes-program%20.pdf, p10, 2011/12/5
24) Scottish Golf Union, Scottish Golf Pathways. A Plan for Performance and Coaching; SCOTTISH_GOLF_PATHWAYS_2007.pdf, 2011/10/1

巻末附録

ご父母様に対してのアンケート用紙

Ｑ１．子どもの夢を知っていますか？　（　１．はい　２．いいえ　）

Ｑ２．子どもの夢について話し合ったことはありますか　（　１．はい　２．いいえ　）

Ｑ３．子どもの目標を知っていますか？　（　１．はい　２．いいえ　）

Ｑ４．年間何試合ぐらい出場していますか？　（　　回）

Ｑ５．なぜミズノゴルフアカデミーを選択したのですか？
（　　）

Ｑ６．アカデミーでの練習内容を知っていますか？　（　１．はい　２．いいえ　）

Ｑ７．現在，子どもが取り組んでいる課題を知っていますか？　（　１．はい　２．いいえ　）

Ｑ８．子どもの長所（プレー・クラブ・ショット）を知っていますか？　（　１．はい　２．いいえ　）

Ｑ９．アカデミーへの願いはなんですか？
（　　）

Ｑ１０．アカデミーで子どもに身に付けてほしいこと
（１．　礼節　２．技術　３．人間関係　）

Ｑ１１．アカデミーに今後，改善してほしいことはありますか？　（　１．はい　２．いいえ　）

「はい」の場合，何を改善してほしいですか？（複数可）
例：開校時間を増やしてほしい.
（　　）

Ｑ１２．子どもはアカデミー以外の時間で練習をしていますか？　（　１．はい　２．いいえ　）

Ｑ１３．子どもは１週間に何回練習場に行きますか？
（　１．1回　２．2回　３．3回　４．4回　５．5回　６．6回　７．毎日　）

Ｑ１４．子どもは練習場での平均練習時間はどれくらいですか？
（　１．30 分未満　２．30 分以上 1 時間未満　３．1 時間以上 2 時間未満　４．2 時間以上 3 時間未満

Ｑ１５．子どもは練習場では，平均何球練習しますか？
（　１．0～50 球　２．51～100 球　３．101～150 球　４．151～200 球　５．201～250 球　６．251～300 球　７．301～350 球　８．351～400 球　９．401 球以上）

Ｑ１６．子どもは１ヵ月に何回ゴルフコースに行きますか？
（　１．1～2 回　２．3～4 回　３．5～6 回　４．7～8 回　５．9～10 回　６．それ以上　）

Ｑ１７．子どもは誰とコースに行きますか？
（　１．親　２．ともだち　３．知人　４．プロ　５．一人　）

Ｑ１８．子どもの練習内容・回数は誰が考えていますか？
（　１．アカデミーのコーチ　２．他のレッスンプロ（アカデミー関係以外）　３．親　４．子供　）

Ｑ１９．子どもの調子が悪い時には誰に相談されますか？
（１・アカデミーのプロ　２・その他のレッスンプロ（アカデミー関係以外）　３．知人　４・相談しない）

Ｑ２０．アドバイスや助言を受ける中で，誰の意見を一番尊重されますか？
（１．アカデミーのプロ　２．アカデミー以外のプロ　３．ご自身の意見　４．知人　５．その他（　　）　）

Ｑ２１．（Ｑ６で「はい」と答えた方.）子どもが取り組んでいる課題を教えてください.
（できるだけ具体的に）
例：ティーショットが方向性を上げるために，ダウンスイングの軌道を修正している.

（　　）

Ｑ２２．アカデミーに入って子どもは何が変わりました？（複数可）
（１．競技力が向上した　２．礼儀が身についた　３．友達が増えた　４．挨拶ができるようになった
　５．その他（　　）　）

ご協力ありがとうございました

選手の皆様へのアンケート調査用紙

性別　（　男　　女　）　　**年齢**（　　歳）　　**競技歴**（　　年）
ベストスコア　（　　）　**アカデミーに入っている期間**　（　　年　ヵ月）
年間試合数　（　　試合）

Ｑ１．ゴルフを始めた理由はなんですか？
（１．親のすすめ　　２．兄弟がやっていたから　　３．友達がやっていたから
４．あこがれのプロ選手の影響　　５．それ以外（　　）　）

Ｑ２．ゴルフ以外の習いごと・スポーツをしていますか？（　１．はい　　２．いいえ　）

Ｑ３．何をやっていますか？（複数可）
（　　）（　　）

Ｑ４．将来の夢はなんですか？
（１．プロゴルファー　　２．プロゴルファー以外のスポーツ選手（　　）
３．それ以外（　　）　）

Ｑ５．親やコーチは自分の夢を知っていると思いますか
（１．知っている　２．知っていると思う　３．わからない　４．知らないと思う　５．知らない）

Ｑ６．ゴルフが好きですか？
（１．大好き　　２．好き　　３．ふつう　　４．きらい　　５．大きらい）

Ｑ７．現在，だれにゴルフを教えてもらっていますか？（複数可）
（１．親　　２．知人　　３．アカデミーのプロ　４．アカデミー以外のプロ　）

Ｑ８．自分の長所（得意なクラブ・ショット・プレー）を知っていますか？　（　はい　　いいえ　）

Ｑ９．ミズノアカデミーを選んだ理由はなんですか？
（１．家族のすすめ　　２．自分で決めた　　３．友達がいたから）

Ｑ１０．アカデミーに入った理由はなんですか？
（１．ゴルフが上手くなりたかったから　２．ゴルフが好きだったから　）

Ｑ１１．アカデミーには１週間に何回行きますか？
（１．０回　２．１回　　３．２回　　４．３回　　５．４回　　６．５回　　７．６回　８．毎日）

Ｑ１２．アカデミーのコーチの言っていること（指導内容）を理解していますか？
（　はい　　いいえ　）

Ｑ１３.アカデミー以外で練習に行きますか？　　（　１.はい　　２.いいえ　）

Ｑ１４．（Ｑ１３で「はい」と答えた方.）誰に教わっていますか？
（１．自分　　２．親　　３．知人　　４．アカデミーのプロ　　５．その他アカデミー以外のプロ　）

Ｑ１５．練習の内容は誰が決めていますか？
（１．アカデミーのプロ　２．親　３．アカデミー以外のプロ　４．自分　）

Ｑ１６．１週間に何回練習場に行きますか？
（　１．１回　　２．２回　　３．３回　　４．４回　　５．５回　　６．６回　　７．毎日　）

Ｑ１７．練習場での平均練習時間はどれくらいですか？
（　１．30 分未満　２．30 分以上 1 時間未満　３．1 時間以上 2 時間未満　４．2 時間以上 3 時間未満　５．3 時間以上）

Ｑ１８．練習場では，平均何球練習しますか？
（　１．0～50 球　２．51～100 球　３．101～150 球　４．151～200 球　５．201～250 球　６．251～300 球　７．301～350 球　８．351～400 球　９．401 球以上）

Ｑ１９．１ヵ月に何回ゴルフコースに行きますか？
（　１.1～2 回　　２.3～4 回　　３.5～6 回　　４.7～8 回　　５.9～10 回　　６．

それ以上　）

Ｑ２０．誰と行きますか？
（　１．親　　２．ともだち　　３．知人　　４．プロ　　５．一人　）

Ｑ２１．調子が悪いと感じたとき最初に相談するのは誰ですか？
（　１．親　２．アカデミーのプロ　３．アカデミー以外のプロ　４．相談しない　）

Ｑ２２．なぜですか？
（　１．信頼できるから　２．解決策を教えてくれるから　３．話しやすいから　）

Ｑ２３．アカデミーに入ってよかったと思うことはなんですか？
（　１．ゴルフが上手くなった　２．友達ができた　３．自信が持てた　４．ゴルフが好きになった

ご協力ありがとうございました.